

# がん診療連携拠点病院等 院内がん登録

2012年3年生存率集計 報告書

国立がん研究センター がん対策情報センター  
がん登録センター 院内がん登録分析室

令和元年8月  
国立がん研究センター がん対策情報センター

---

## がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2012 年 3 年生存率集計の公表について

---

国立がん研究センターでは、がん対策情報センター・がん登録センターを中心に、これまで全国がん登録及び院内がん登録の標準化や体制整備に努めて参りました。院内がん登録は、2007 年診断例から全国のがん診療連携拠点病院のデータを収集し、院内がん登録全国集計として我が国のがん診療の実態把握に努めています。院内がん情報をもととした生存率に関する資料としては、これまで2007～2009年診断例における5年生存率、2011年診断例における3年生存率を公表しました。

2012年例を対象とした本報告書では、これまでの集計部位に加え、喉頭、胆嚢、腎、腎盂尿路の4部位について新たに生存率を集計しました。合わせて17部位のがんについてデータ提出の協力が得られましたので、生存状況把握割合に関して一定の精度を満たしたがん診療連携拠点病院全体のデータを用いることにより、がん診療連携拠点病院全体での病期、観血的治療の実施別に生存率を推定した結果をまとめることができました。本報告書公表を契機として、各種がんの有効な診断・治療方法の議論が高まり、より効果的ながん対策が進むことを期待します。

令和元年 8 月

国立研究開発法人国立がん研究センター 理事長

中釜 斉

## 生存率について

がん医療を評価する重要な一つの指標として、生存率がある。伝統的に、診断後あるいは治療後 5 年経過した時の生存率が治癒の目安とされており、がん(部位)によっては 10 年生存率が治癒の目安とされることもある。この報告書では、2012 年に診断された例の 3 年生存率を集計した。

信頼性の高い生存率を算定するためには、患者の生存確認を行うことが重要であるため、自施設への来院情報だけにたよらずに、患者の生存状況を把握する生存確認調査(いわゆる予後調査)が必須となる。この生存状況の把握が不十分な場合には真の値よりも高い生存率となることが知られているため、また、生存率は生存状況把握割合以外にも生存率を算出した対象集団の基礎疾患の頻度や年齢分布などの偏りなどによっても大きな影響が出る等、生存率の結果の解釈には留意する必要がある。

### 1) 生存状況把握割合の意味

生存率の算出において、先行研究における試算では、生存状況把握割合によって院内のデータのみを使って計算した場合、5 年相対生存率が真の値よりも 10~15% 高く産出されてしまうことがあるとの報告がある。そのため、我が国で先行して施設別生存率の公表をしてきた全国がん(成人病)センター協議会の集計方法を踏まえて、生存状況把握割合<sup>注1</sup>が 90%以上であることを基準として、この基準を全がんにおいて達成した施設のデータのみを集計の対象とした。この生存状況把握割合は国際的には 95%以上が望ましいとされており、わが国の院内がん登録でもより高い把握割合を目指すべきであると考えられる。

### 2) 生存率の種類

生存率には、その算出の仕方によって大きく「実測生存率」、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」に分けられる。

「実測生存率」は、死因に関係なく、全ての死亡を計算に含めた生存率で、診断例に対する～年後の生存患者の割合で示される。計算方法は複数存在するが、Kaplan-Meier 法が頻用され、医療機関の公表する生存率は Kaplan-Meier 法による実測生存率であることが多い。本報告においても、実測生存率については Kaplan-Meier 法を用いて計算している。

一方で、がんによる生存への影響を把握したいときには、「疾病特異的生存率」、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が用いられる。「疾病特異的生存率」は、実測生存率で計算される対象にはがん以外の死因による死亡も死亡の中に含まれるため、がん以

外の死因による死亡を、「打ち切り」として計算している。この疾病特異的生存率を正確に推定するためには、がんが死因でないかどうか判定できなければならず、そのために原死因を用いて判定するか、それ以外の死因も含めて判定するかで結果が変わってくる。現在の日本の現状において、この死因の把握はかなり困難である。

これに対し、「相対生存率」、「ネット・サバイバル(Net Survival)」は、実測生存率を対象と同じ性、年齢、診断年(歴年)の一般の日本人集団で「がんではなかった場合の生存率」という考えによる期待生存率を算出し、それで、実際の生存率を割って算出する方法である。疾患特異的生存率のように個々の死因を把握する必要がないため、国際的によく用いられている。

この期待生存率の算出方法の違いから、Ederer I 法、Ederer II 法、Hakulinen 法などがこれまでに開発されてきており、それぞれ特徴があるが、相対生存率に変わる方法として、「ネット・サバイバル(Net Survival)」が目目されている。本集計においては、従来からわが国で推奨されてきた Ederer II 法を用いた。

### 3) 既存の生存率集計

現在までに、原則として全国を対象とし、かつ臓器別ではなく、全がんを対象として公表されてきたがんの 5 年生存率には、地域がん登録によるもの、全国がん(成人病)センター協議会によるものがあり、これらは全て相対生存率で算出されている。

本集計は、人口ベースのデータに近い、臓器別の全国データや、都道府県別データであるため、実測生存率とともに、相対生存率を算出した。

### 4) 生存率をどう解釈するか

本集計による生存率は、既存の地域がん登録や全がん協会の集計結果に比べても、より広汎な集計データといえるが、それでも拠点病院に限ったデータであることに留意する必要がある。さらに、都道府県別の集計結果を記載しているが、施設数が少ない都道府県のデータについてはかなりの偏りあるいは不正確さが存在していることを想定する必要がある。このため、ここで示した生存率が、単純に当該都道府県のがん医療の優劣ではないことに留意する必要がある。なお、本報告書では、生存率に影響を与えることが想定される情報で、かつ院内がん登録としてデータ収集されている情報として、①性、②年齢、③病期(がんの進行状況)、④観血的治療の有無(手術の有無)、⑤組織型(肺がんの場合)などを参考資料として併記して示している。

注1 全がん協調査などでは、消息判明率、追跡率と呼ばれてきたが、本報告書ではこの呼び方で表記する。

参考資料

がん登録実務者のためのマニュアル 生存率解析 味木和喜子  
2001年9月、大阪府立成人病センター調査部  
がん専門施設における生存率計測の標準化 木下洋子他、  
癌の臨床 第46巻第10号、2000年9月、篠原出版新社

## 目 次

がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2012 年 3 年生存率集計の公表について .....	2
生存率について.....	3
I 2012 年 3 年生存率集計 調査方法.....	7
1. 収集の対象と方法.....	7
(1) 収集の対象.....	7
(2) 収集方法.....	7
(3) 収集項目と定義.....	7
2. 集計の対象と集計方法.....	8
(1) 集計の対象.....	8
(2) 集計の手順.....	8
(2) 集計項目の定義.....	9
(3) 集計方法.....	10
(4) 公表の対象.....	10
II 2012 年 3 年生存率集計 結果概要.....	13
1. 調査参加施設と登録数.....	13
2. 集計対象.....	13
3. 相対生存率集計対象者.....	13
III 2012 年 3 年生存率集計 結果詳細(全体) :悪性新生物<腫瘍>.....	23
1. 全がん.....	23
2. 胃(C16).....	26
3. 大腸(C18-20).....	28
4. 肝(C22).....	30
5. 肺(C33-34).....	32
6. 女性乳房(C50).....	34
7. 食道(C15).....	36
8. 膵臓(C25).....	38
9. 子宮頸部(C53).....	40
10. 子宮体部(C54).....	41
11. 前立腺(C61).....	42
12. 膀胱(C67).....	44
13. 喉頭(C32.0, 32.1, 32.2, 10.1).....	46
14. 胆嚢(C23.9).....	48
15. 腎(C64.9).....	50
16. 腎盂尿管(C65.9, 66.9).....	52
17. 特別集計:局在コード.....	54
付表(2012 年 3 年生存率集計).....	62
1. 集計対象施設一覧.....	



## I 2012 年 3 年生存率集計 調査方法

### 1. 収集の対象と方法

#### (1) 収集の対象

本集計では、平成 29 年 4 月 1 日時点のがん診療連携拠点病院 433 施設に調査を依頼した。データ収集に当たっては、院内がん登録 2012 年診断例の通年データを持ち、死亡日、最終生存確認日、生存期間等の生存状況情報を含めたデータ提出が可能と考えられる全国のがん診療連携拠点病院に、「予後情報付集計」の名称で、2012 年 3 年予後情報付登録情報の提供を依頼した。調査対象例は、平成 24(2012)年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間に、自施設で診断または他施設で既に診断されて自施設に初診した、全悪性新生物(がん)及び頭蓋内の良性及び良悪性不詳の腫瘍の登録患者\*である。これら対象例の 3 年予後情報付の登録情報(以下「予後情報付腫瘍データ」という。)の提供を各施設に依頼した。なお、各施設における登録対象患者は、下記の通りである。また、2012 年診断例のデータについては、平成 29 年の院内がん登録 2012 年予後情報付集計の際に提出されたデータを用いた。

#### \* 各施設における登録患者について

各施設における登録対象は、登録を実施する自施設での新規の診断患者または他施設で診断された初診患者であり、初発例、再発例を含む。また、治療を行わない経過観察例も含まれる。セカンドオピニオンのみを目的とした初診に関しては登録対象とするかどうかは各施設の判断に任されている。1 腫瘍 1 登録の原則に基づき、同一患者に別のがん種と判断されるがんが同時または時間をあけて(異時性に)生じた場合には、多重がんとして登録される。なお、多重がんの判断は各施設に任されている。登録済みの同じがんについて当該施設で治療中に再発した患者については登録対象ではないが、同じ患者が同じがんで複数のがん診療連携拠点病院を受診した場合は、異なる施設において同じ患者の同じがんが登録されている可能性がある。(本全国集計では提供されたデータは匿名化後のデータであるため、重複の整理は行わない。)

#### (2) 収集方法

平成 29 年 6 月 9 日に、対象施設に、「院内がん登録予後情報付集計 手順書」を送付し、手順書に従って作成されたデータの提供を依頼した。データは、エラーチェックのための品質管理ツールを用いインターネット(ネットワーク型)を通しての提出を依頼した。データ収集期間は、平成 29 年 6 月 19 日から 7 月 14 日までとした。

提出においては、「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義 2006 年度版修正版」において定義された標準項目(以下「標準項目」と略す。)を満たす腫瘍データを収集した。項目の品質管理(定義通りの項目・区分で登録されているか、関連する項目間の登録内容に矛盾はないか等)については、ネットワーク型ではデータの收受の段階で品質管理を

実施し、論理矛盾がない状態でのデータ提供への協力を依頼した。なお、健総発第 0907001 号「がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録における必須項目の標準登録様式に係る改正等」において定義された必須項目のみでのデータ提供及び従来型の光学メディア記録の形でのデータ提供についてはデータ精度管理上の問題から集計対象としない。

#### (3) 収集項目と定義

収集項目は、前述の診断から 3 年後の生存状況の情報を含む標準項目である。また、予後情報付腫瘍データの提出にあたり、下記の計算式に従って、追跡期間(日数)を計算し入力するよう依頼した。

#### \* 追跡期間(日数)の計算方法

追跡期間(日数)とは、起算日から生存最終確認日もしくは死亡日までの日数とする。起算日は、後述する集計用診断日決定のルールに従って決定する。追跡終了日とは、予後調査結果が死亡であり死亡日の年月情報が判明している場合は死亡日、生存の場合は生存最終確認日とする。

$$\text{追跡期間(日)} = \text{追跡終了日} - \text{起算日} + 1$$

本集計に関連する項目について以下に記述する。その他の標準項目の定義は、2012 年全国集計報告書を参照いただきたい。

#### i. 診断区分

診断区分は、わが国の地域がん登録との整合性を図るために用いられている分類で、「1:初発(治療開始前)」、「2:治療開始後」に分けられる。この項目は当該腫瘍について自施設を受診する前に他施設において既に治療が開始されていたか否かを区別するもので、この項目が「1:初発(治療開始前)」であったケースでは、自施設で行われた治療は初回治療とみなす。本来であれば、一連の治療方針の下で施設を問わずに初回治療とされるべきであるが、わが国の現状では、施設が異なると、一連の治療であるかないかが判明しないことが多く、そのため、他施設での治療の情報は、初回治療であっても「初回治療なし」とするルールを定めている。

#### ii. 症例区分

症例区分は、生存率の算定等で対象となる患者範囲を決定する重要な区分である。院内がん登録の機能の一つには、各施設の対がん医療活動の評価のための基礎資料を提供することにある。他施設と比較し自施設のがん診療実態を把握するためには、がん対象例を正しく識別する必要がある。この項目では、初回診断(登録施設での診断の有無)と初回治療(登録施設における初回治療の有無)の組み合わせにより患者を分類するための区分を登録している。本集計では、原則として

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を分析対象とする。また、施設によっては前述の診断区分のみを入力している施設もあり、本集計では診断区分の組み合わせから症例区分を算出する対応表を用いて集計を行った。

### iii. 臨床病期

#### 治療前ステージ

UICC (International Union Against Cancer) の定める病期の分類方法に基づき、何らかの治療が行われる以前につけられたステージを指す。わが国の一般的な臨床現場で使用される癌取扱い規約に基づくステージとは若干異なる部分がある。胃、乳房、肝臓、大腸、肺についてのみ、標準項目とされているが、他のがんについては任意の登録となっている。肝臓については、取扱い規約のステージも標準項目として登録することになっている。

前医で治療がなされており治療前のステージが不明の場合などは「不明」に分類されるか、空白のままに登録される。わが国の診療情報に関わる施設間の情報交換に関する懸念からこのような方針をとっている。

#### 術後病理学的ステージ

手術が行われた患者に対して、術後に検体が提出され病理学的に算出されたステージを登録する。手術が行われなかった場合には空欄で、術前に化学療法や放射線療法、免疫・内分泌療法などが行われた場合には、手術前の治療の影響が予想されるため、術後病理学的ステージは適応外として登録される。定義上は、原発巣に対する切除術が行われ、断片が陰性であるような治癒的な切除が行われた場合に本ステージが評価できるとされている。術後病理学的ステージは、腫瘍やリンパ節を顕微鏡的に観察して得られるステージであることから、治療前ステージと比較して、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表しているといえる。

なお、2012年登録対象はUICC TNM 第7版準拠で登録されている。

### iv. 治療の有無

院内がん登録において登録される治療は、登録対象となったがんに対する初回治療である。初回治療とは治療開始時点で計画された一連の治療のことであり、症状・治療の進行に従って後に追加された治療などは含まれない。当初経過観察が計画されていたが、病状が悪化したために治療が行われた場合なども「初回治療なし」となる。また、症状緩和的な目的で行われた手術や放射線治療は、部分的に腫瘍に対する治療であるといえることから登録対象に対する治療の一環に考えるが、腫瘍に影響のない、鎮痛剤や制吐剤などの治療は、「治療あり」としない。

現時点の院内がん登録では、「i 診断区分」で既に述べたとおり、登録施設で行われた治療のみを「初回治療あり」としている。

### ① 手術・体腔鏡的治療

手術とは一般に外科的治療を指し、体腔鏡とは麻酔下に行われる腹腔鏡、胸腔鏡などの手術を指す。これらには、消化管や気管支内視鏡による治療を含めない。

### ② 内視鏡治療

上記で除外された、消化管、気管支内視鏡などによる治療を指す。

### ③ 放射線治療

原発巣に対する放射線治療だけではなく転移巣に対する放射線治療も含まれる。小線源療法も放射線治療として登録される。

### ④ 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法

症状緩和のための薬物療法(鎮痛剤、制吐剤)などは含まない。また、通常静注・経口化学療法だけではなく、肝動脈化学塞栓療法(TACE)に含まれる化学療法や動注療法も化学療法に分類される。内分泌療法には前立腺癌における除睾術等も含まれる。

### ⑤ 外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度を登録する。ここでは、初回治療として行った総合的な結果が登録される。例えば、最初内視鏡的な治療を行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合は、外科的切除の根治度を登録する。

## 2. 集計の対象と集計方法

### (1) 集計の対象

生存率集計における集計対象は、2012年に診断された例で次のiからiiiを満たす例を集計対象とした。

#### i. 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

「症例区分 2:診断ならびに初回治療に関する決定・施行がなされた症例」及び「症例区分 3:他施設で診断確定され、自施設で初回治療方針に関する決定・施行が行われた症例」を集計対象とした。

#### ii. 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

本集計では、原則として新生物<腫瘍>の性状コード3の「悪性、原発部位(悪性新生物<腫瘍>)」の例を集計対象とした。但し、脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患については、良性、良性又は悪性の別不詳の例を含めて集計対象とした。また、GISTの良性または悪性の別不詳を集計対象に含めた。

#### iii. 年齢

診断時の年齢が0から99歳までの例を集計対象とした。

### (2) 集計の手順

#### ① 集計対象例の選定

提出されたデータから上記のiからiiiに該当する例を抽出した。

#### i 自施設診断・自施設治療と他施設診断・自施設治療例

集計対象施設から提供されたデータを、表 1-1 集計



用診断日の決定のルール、及び表 1-2 集計用症例区分の決定のルールに基づいて、「項目:集計用診断日」、「項目:集計用症例区分」を作成した。その後、集計用症例区分が 2, 3 であった例を集計対象とした。

#### ii 悪性新生物<腫瘍>(一部良性の脳腫瘍)

原則として、「項目:330 組織診断名コード」の新生物<腫瘍>の性状を表す第 5 桁コードが「3:悪性、原発部位」であった例を集計対象とした。但し、一部の脳・中枢神経系に発生した腫瘍性疾患、ICD-O-3 の局在コードが「C70.0, C70.9, C71.0, C71.1, C71.2, C71.3, C71.4, C71.5, C71.6, C71.7, C71.8, C71.9, C72.2, C72.3, C72.4, C72.5, C72.8, C72.9, C75.1, C75.2, C75.3」の場合は、「0:良性」又は「1:良性又は悪性の別不詳」であった場合も集計対象に含めた。

#### iii 年齢

年齢は、生年月と集計用診断年月を用いて、院内がん登録全国集計と同様に下記の定義で求めた。

診断年月の月 >= 生年月日の月

⇒診断年月の年 - 生年

診断年月の月 < 生年月日の月

⇒診断年月の年 - 生年 - 1

上記で求めた年齢が 0~99 歳までの例を集計対象とした。

上記で選定した例から、下記の㉗~㉙に該当する場合は集計対象から除外した。

#### ㉗ 性別不詳の場合

半陰陽や性同一性障害による戸籍性別の変更等のため、性別で特有の臓器に発生した腫瘍と戸籍上の性別が矛盾していないかを確認した上で、性別が不詳(項目:性別が 9)であった例を除外した。

#### ㉘ 追跡終了日の年月が不明の場合

追跡終了日は、「項目 660: 予後調査結果」が死亡であった場合は死亡日、生存であった場合は最終生存確認日となる。ただし、死亡例であっても死亡日の年または月が不明の場合は、打ち切り扱いとし、生存最終確認日を追跡終了日とした。追跡終了日の年あるいは月が不明であった場合は、集計対象から除外した。

#### ㉙ UICC TNM 分類総合ステージが 0 期の場合

病期は、患者の予後を予測する上で重要な要因である。院内がん登録では、UICC TNM 分類に基づく治療の選択と評価に不可欠である臨床分類(治療前ステージ)と、術後アジュバント療法の指針となり、予後推定や遠隔成績の計算のための追加情報を提供する術後病理学的分類ステージについて情報を収集している。本集計では、腫瘍切除例(外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果が、1:治癒切除、2:非治癒切除、3:治癒/非治癒の別不詳)については腫瘍の縮小を目的とした化学療法や放射線療法あるいは免疫・内分泌療法などを施行後の腫瘍切除例(術後病

理的ステージ適応外例)及び術後病理学的ステージが不詳であった例を除き、UICC TNM 分類術後病理学的ステージをより患者の治療前の病期を表すとして UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。腫瘍切除例以外は UICC TNM 分類治療前ステージを UICC TNM 分類総合ステージとして用いた。なお、本集計では総合ステージが 0 期であった場合は、集計対象から除外した。

#### ㉚ 追跡期間(日数)の確認

追跡期間(日数)は正確な生存率を算出するために必須の項目である。2012 年診断例については、品質管理において、登録された追跡期間の確認を行っている。

#### ㉛ 集計対象施設の選定

生存率の推定値は、生存状況把握割合に影響を受ける。3 年生存率を計算する場合には、対象者全員の 3 年後の生存状況を把握することが必要となる。これまで、全国がん(成人病)センター協議会は、加盟施設の生存率を公表してきた。がんの生存率は生存状況把握割合を 100%に近づけるほど、真の値に近づくこととされている。しかしながら、現在の院内がん登録における生存確認調査の実施においては、障害も多く、調査を実施しても生存状況が確認できず、生存状況把握割合が低い施設も存在する。また全国がん(成人病)センター協議会の生存率公表においても、改善が要するとされつつも生存状況把握割合が 90%を超えた場合に施設の生存率が公表されてきた。これらの経緯を踏まえ、本集計では前述の集計対象例の生存状況把握割合が 90%以上の施設を集計対象とした。具体的には、予後調査結果が生存であるが追跡期間(日数)が 3 年未満の打ち切り例が施設の生存率集計対象例の 10%未満である施設を集計対象施設とした。

生存状況把握割合 = (1 - (打ち切り例数) / 集計対象例数) × 100

## (2) 集計項目の定義

### ● 部位区分

表 1-3 部位分類コード対応に基づき、作成した。

### ● 臨床病期

#### UICC TNM 分類総合ステージ

本集計では、がん患者の予後に影響するステージとして、治療開始時点でのがんの状態をより正確に表している術後病理学的ステージがある場合(適応外、不詳、空欄を除く)は術後病理学的ステージを、無い場合は治療前ステージを用いて、UICC TNM 分類総合ステージとして集計に用いた。なお、本集計では、各施設で登録されたステージの値を用いて集計をしており、登録されている TNM 情報からみてステージが UICC TNM 分類のステージと一致しない場合であってもデータに修正は加えていない。

UICC TNM 分類総合ステージの対象例は、以下の

組織形態コードとする。

8051-8084, 8090-8110, 8120-8131, 8140-8149,  
8160-8162, 8190-8221, 8260-8337, 8350-8551,  
8570-8576, 8940-8941, 8030-8046, 8150-8157,  
8170-8180, 8230-8231, 8246-8247, 8250-8255,  
8340-8347, 8560-8562, 8580-8671, 8010-8015,  
8020-8022, 8050, 8000-8005  
但し、前立腺は 8120-8131 を除く

UICC TNM 分類総合ステージ分布では、上記組織形態コードのみを集計する。

#### ● 観血的治療

当該のがんに対する外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度について、「項目 520:外科的・体腔鏡的・内視鏡的治療の結果」に登録することとなっている。登録の際には、「1:原発巣-治癒切除」、「2:原発巣-非治癒切除」、「3:原発巣-治癒/非治癒の別不詳」、「4:姑息/対象治療、転移巣切除」、「8:その他」、「9:不詳」の中から一つを選択する。本集計では、観血的治療の有無、外科・体腔鏡的・内視鏡的治療の根治度別に生存率を集計した。

#### (3) 集計方法

前述のとおり選定された集計対象例・集計対象施設において、3 年後の生存状況変数を作成し生存率を推定した。追跡期間(日数)が3年未満でかつ予後調査結果が死亡であった場合は、3 年後の生存状況＝死亡(1)とした。

生存率は、カプランマイヤー法を用いた実測生存率と、国立がん研究センターがん対策情報センターがん

登録センターにおいて作成されたコホート生存率表(2015 年版)を用い、Ederer II 法を用いた相対生存率を推定した。なお、本報告書では StataMP 14.0 (Stata Corporation, College Station, TX, USA)を用い、Paul W. Dickman らが開発したstrsを用いて相対生存率を推定している。

#### (4) 公表の対象

平成 30 年度第 1 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会での検討に基づき、以下の公表基準に沿って、生存率を公表する。

生存率の推定値は、対象例数、死亡者数等の件数に依存する。一般に対象例数が 30 例未満の場合、推定された生存率の信頼性が低くなるため、本集計では対象例数が 30 例未満の場合は、3 年生存率を公表しないこととする。なお、各集計表において、集計値が 10 以下の場合、個人が特定される可能性が高いことから、厚生労働省平成 28 年 8 月 4 日第 8 回がん診療提供体制のあり方に関する検討会での検討に従い 1-3 件、4-6 件、7-9 件といった形で公表する。

なお、都道府県別生存率については、当該都道府県で集計対象が 1 施設となる場合は表示していない。

#### 参考資料

1)全国がん(成人病)センター協議会. 全がん協加盟施設におけるがん患者生存率公表にあたっての指針(案) 2004/11/25版 厚生労働省がん研究助成金「地域がん専門診療施設におけるソフト面の整備拡充に関する研究」班

表1-1 集計用診断日決定のルール

集計用症例区分	集計用診断日	備考
1: 診断のみ	診断日2	
2: 自施設診断自施設治療	診断日2	
3: 他施設診断自施設治療	当該腫瘍初診日	
4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例	当該腫瘍初診日	*
5: 剖検	診断日2	死亡日
8: その他	診断日2、当該腫瘍初診日のいずれか	*

\* 優先する集計用診断日となる日付が登録されていない場合、診断日 2、当該腫瘍初診日、診断日 1、入院日の中で、2012 年の日付の項目を用いて作成した。

表 1-2 集計用症例区分の決定のルール

診断区分	診断施設	治療方針	集計用症例区分
1: 初発	1: 自施設診断	1: 自施設で治療	2: 自施設診断自施設治療
1: 初発	1: 自施設診断	3: 自施設で経過観察	2: 自施設診断自施設治療
1: 初発	1: 自施設診断	4: 他施設へ紹介	1: 診断のみ
1: 初発	1: 自施設診断	8: 来院中断	1: 診断のみ
1: 初発	1: 自施設診断	9: その他	1: 診断のみ
1: 初発	2: 他施設診断	1: 自施設で治療	3: 他施設診断自施設治療
1: 初発	2: 他施設診断	3: 自施設で経過観察	3: 他施設診断自施設治療
1: 初発	2: 他施設診断	4: 他施設へ紹介	8: その他
1: 初発	2: 他施設診断	8: 来院中断	8: その他
1: 初発	2: 他施設診断	9: その他	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	1: 自施設で治療	4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2: 治療開始後	2: 他施設診断	3: 自施設で経過観察	4: 初回治療開始後の症例、 もしくは再発症例
2: 治療開始後	2: 他施設診断	4: 他施設へ紹介	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	8: 来院中断	8: その他
2: 治療開始後	2: 他施設診断	9: その他	8: その他

症例区分が登録されているケースでは症例区分を優先、症例区分が登録されていない例では、診断区分・診断施設・治療方針から上記のルールで変換した集計用症例区分を用いて集計用症例区分を作成した。

表 1-3 部位分類コード対応

部位名	第 1 段階 ICD-O-3 形態コード	第 2 段階 ICD-O-3 部位コード
口腔・咽頭		C00-C14
食道		C15
胃		C16
結腸		C18
直腸		C19-C20
大腸		C18-C20
肝臓		C22
胆嚢・胆管		C23-C24
膵臓		C25
喉頭		C32
肺		C33-C34
骨・軟部		C40-C41、C47、C49
皮膚(黒色腫を含む)		C44
乳房		C50
子宮頸部		C53
子宮体部		C54
子宮		C55
卵巣		C56
前立腺		C61
膀胱		C67
腎・他の尿路		C64-C66、C68
脳・中枢神経系		C700、C71、C722-C729、C751-C753
甲状腺		C73
悪性リンパ腫	959-972 974-975	
多発性骨髄腫	973、976	
白血病	980-994	
他の造血器腫瘍	995-998	C421
その他		第 1 段階、第 2 段階で変換された以外の症例

## II 2012年3年生存率集計 結果概要

### 1. 調査参加施設と登録数

調査を依頼した433施設のうち、349施設から2012年3年予後情報付腫瘍データが提供された(協力率80.6%)。表2-1に全登録数と集計対象を示す。

### 2. 集計対象

(1)集計の対象

#### ①集計対象例の選定

i 自施設診断自施設初回治療及び他施設診断自施設初回治療

提出されたデータ全体で、「自施設診断・自施設初回治療(症例区分2)」が331,691例(60.6%)、「他施設診断・自施設初回治療(症例区分3)」が112,094例(20.5%)であり、全登録数の81.1%を占めた。

ii 悪性新生物<腫瘍>

症例区分2,3(自施設診断・自施設初回治療又は他施設診断・自施設初回治療)のうち悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)は、388,661例(87.6%)であった。脳腫瘍の良性又は良性・悪性の別不詳を合わせると集計対象腫瘍例は、397,473例(89.6%)であった。

iii 年齢

診断時の年齢を見ると、100歳以上が118例あり、生存率集計からは除外した。年齢別にみると、70歳代が31.8%と最も多く、次いで60歳代が28.6%であった。

上記で選定した例から、性別不詳及び追跡終了日不明若干名及びUICC TNM分類総合ステージ0期137例を集計対象から除外した。

#### ②追跡期間(日数)の確認

2012年3年予後情報付データ収集では、品質管理において追跡期間の確認を行った。なお、追跡終了日(死亡例の場合は、死亡日の年月、生存例の場合は、生存最終確認日の年月)が不明の場合は集計対象から除外した。但し、死亡例で死亡日の年月が不明であっても、生存最終確認日の年月が判明している場合は、生存最終確認日を追跡終了日とし、打ち切り例として集計した。

#### (2)生存状況把握割合

各施設における症例区分2又は3、及び悪性新生物<腫瘍>(新生物<腫瘍>の性状コードが3)の全登録数に対する生存状況把握割合について検討した結果、最も低かった施設の生存状況把握割合は、30.8%で、最も高かった施設は100.0%であった。提出されたデータ全体でみると生存状況把握割合は94.4%であった。都道府県・施設別生存状況把握割合について図2-1に示した。以降の集計結果では、生存状況把握割合が90%以上であった286施設における登録例を集計対象とした。

### 3. 相対生存率集計対象者

全がんで生存状況把握割合が90%以上であった286施設において症例区分2,3かつ新生物<腫瘍>の性状コードが3(悪性新生物<腫瘍>)と登録されていたのは、332,064例で、脳の腫瘍性疾患の良性、良性又は悪性の別不詳を含めると339,599例であった。そのうち、UICC TNM分類治療前ステージが0期、性別不詳、追跡終了日不明例122例を除く339,376例を集計対象とした。

表 2-1 全登録数と集計対象

	集計対象外施設		集計対象施設		全体	
	63 施設	(%)	286 施設	(%)	349 施設	(%)
<b>全登録数</b>	79,843	100.0	467,775	100.0	547,618	100.0
<b>症例区分別登録数</b>						
1. 診断のみ	4,824	6.0	23,697	5.1	28,521	5.2
2. 自施設診断・自施設初回治療	50,316	63.0	281,375	60.2	331,691	60.6
3. 他施設診断・自施設初回治療	14,905	18.7	97,189	20.8	112,094	20.5
4. 初回治療開始後・再発	8,082	10.1	47,644	10.2	55,726	10.2
5. 剖検	50	0.1	232	0.0	282	0.1
6. 不明・その他	1,666	2.1	17,638	3.8	19,304	3.5
症例区分(2, 3)(再掲)	65,221	81.7	378,564	80.9	443,785	81.0
<b>症例区分 2, 3のうち</b>						
良性	960	1.5	5,476	1.4	6,436	1.5
良性又は悪性の別不詳	320	0.5	2,120	0.6	2,440	0.5
上皮内癌	7,344	11.3	38,904	10.3	46,248	10.4
悪性新生物<腫瘍>	56,597	86.8	332,064	87.7	388,661	87.6
集計対象腫瘍*	57,874	88.7	339,599	89.7	397,473	89.6
<b>症例区分 2, 3、集計対象腫瘍のうち(年齢不詳除く)</b>						
年齢 0~14 歳	191	0.3	1,251	0.4	1,442	0.4
15~39 歳	1,667	2.9	11,155	3.3	12,822	3.2
40 歳代	3,366	5.8	21,332	6.3	24,698	6.2
50 歳代	6,879	11.9	41,932	12.3	48,811	12.3
60 歳代	16,099	27.8	97,623	28.7	113,722	28.6
70 歳代	18,678	32.3	107,739	31.7	126,417	31.8
80-99 歳	10,977	19.0	58,466	17.2	69,443	17.5
100 歳以上	17	0.0	101	0.0	118	0.0
0~99 歳(再掲)	57,857	100.0	339,498	100.0	397,355	100.0
<b>除外対象</b>	15	0.0	122	0.0	137	0.0
性別不詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
追跡終了日不明	(4-6)	0.0	14	0.0	18	0.0
総合ステージ 0 期	11	0.0	108	0.0	119	0.0
<b>集計対象例</b>	57,842		339,376		397,218	

\*症例区分2, 3のうち、悪性新生物<腫瘍>、脳・中枢神経系に発生した良性または良性・悪性の別不詳の腫瘍を含む

表 2-2 調査参加 349 施設的全登録数及び症例区分 2, 3 の登録数

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分 2, 3）登録 割合	
総数			286	547,618	331,691	112,094	81.0
北海道	北海道がんセンター	集計対象	2323	1046	651	73.1	
	JA 北海道厚生連旭川厚生病院	集計対象	1423	969	184	81.0	
	王子総合病院	集計対象	977	754	97	87.1	
	市立釧路総合病院	集計対象	1059	642	182	77.8	
	市立札幌病院		1177	901	158	90.0	
	JA 北海道厚生連帯広厚生病院	集計対象	1475	1147	202	91.5	
	北見赤十字病院	集計対象	1324	820	241	80.1	
	日鋼記念病院	集計対象	591	326	38	61.6	
	函館厚生院 函館五稜郭病院	集計対象	1562	1223	179	89.8	
	札幌医科大学附属病院		2263	1096	502	70.6	
	JA 北海道厚生連札幌厚生病院		1556	1078	267	86.4	
	手稲溪仁会病院	集計対象	2119	1287	384	78.9	
	旭川医科大学病院		1665	934	420	81.3	
	独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院	集計対象	788	643	98	94.0	
	KKR 札幌医療センター		1017	713	73	77.3	
青森	青森県立中央病院	集計対象	2048	1226	472	82.9	
	八戸市立市民病院	集計対象	1395	973	277	89.6	
	三沢市立三沢病院	集計対象	441	262	84	78.5	
	十和田市立中央病院		689	408	84	71.4	
岩手	岩手県立中央病院	集計対象	1891	1356	355	90.5	
	岩手県立二戸病院	集計対象	363	242	54	81.5	
	岩手医科大学附属病院	集計対象	2750	1289	923	80.4	
	岩手県立中部病院		1100	685	230	83.2	
	岩手県立磐井病院		694	419	161	83.6	
	岩手県立宮古病院		444	296	61	80.4	
	岩手県立胆沢病院	集計対象	839	643	134	92.6	
	岩手県立久慈病院		380	306	22	86.3	
	岩手県立釜石病院	集計対象	376	189	61	66.5	
宮城	東北大学病院	集計対象	3346	1369	901	67.8	
	宮城県立がんセンター	集計対象	1883	1020	375	74.1	
	石巻赤十字病院	集計対象	1854	1134	254	74.9	
	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター		1617	978	320	80.3	
	大崎市民病院	集計対象	1578	1188	251	91.2	
	独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院		902	638	170	89.6	
秋田	秋田大学医学部附属病院	集計対象	1486	658	532	80.1	
	秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院	集計対象	612	417	125	88.6	
	大曲厚生医療センター	集計対象	671	521	83	90.0	
	秋田県厚生連 平鹿総合病院		820	694	95	96.2	
	秋田県厚生農業協同組合連合会 能代厚生医療センター		612	444	78	85.3	
	秋田赤十字病院	集計対象	1174	863	216	91.9	
	大館市立総合病院	集計対象	686	494	126	90.4	
	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療センター	集計対象	1024	715	176	87.0	
山形	山形大学医学部附属病院	集計対象	1823	952	520	80.7	
	山形市立病院済生館	集計対象	951	723	102	86.8	
	置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院	集計対象	951	701	173	91.9	
福島	労働者健康安全機構 福島労災病院		1017	655	213	85.3	
	福島県立医科大学附属病院	集計対象	2165	995	547	71.2	
	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	集計対象	1782	1254	297	87.0	
	竹田総合病院	集計対象	1316	809	293	83.7	

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院	集計対象	2020	1099	427	75.5
	会津中央病院	集計対象	820	641	84	88.4
茨城	茨城県立中央病院	集計対象	1705	1125	308	84.0
	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター		882	638	121	86.1
	茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター	集計対象	1464	1146	187	91.1
	株式会社日立製作所 日立総合病院・茨城県地域がんセンター		1396	1052	237	92.3
	友愛記念病院	集計対象	876	530	101	72.0
	茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院	集計対象	552	347	47	71.4
	筑波大学附属病院	集計対象	2565	1285	570	72.3
	国立病院機構水戸医療センター	集計対象	1053	784	183	91.8
	株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院	集計対象	696	501	70	82.0
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター	集計対象	2109	1097	596	80.3
	自治医科大学附属病院	集計対象	3241	1875	830	83.5
	栃木県済生会宇都宮病院	集計対象	1826	1408	190	87.5
	獨協医科大学病院	集計対象	2557	1789	444	87.3
	那須赤十字病院	集計対象	792	578	77	82.7
群馬	群馬県立がんセンター	集計対象	2249	1039	766	80.3
	国立病院機構沼田病院	集計対象	301	197	42	79.4
	独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター	集計対象	507	310	69	74.8
	独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター	集計対象	1262	821	203	81.1
	公立富岡総合病院	集計対象	897	615	135	83.6
	桐生厚生総合病院	集計対象	826	703	57	92.0
	前橋赤十字病院	集計対象	1413	1017	229	88.2
埼玉	さいたま赤十字病院	集計対象	1377	1056	188	90.3
	埼玉県立がんセンター	集計対象	3770	1883	1048	77.7
	深谷赤十字病院	集計対象	644	507	122	97.7
	春日部市立医療センター	集計対象	795	515	77	74.5
	埼玉医科大学総合医療センター		2565	1601	374	77.0
	獨協医科大学越谷病院	集計対象	1907	1139	393	80.3
	川口市立医療センター	集計対象	1276	763	180	73.9
	埼玉医科大学国際医療センター	集計対象	4267	2155	1415	83.7
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院	集計対象	1228	814	163	79.6
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	集計対象	5228	2163	1573	71.5
	国保旭中央病院	集計対象	2387	1800	195	83.6
	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	集計対象	2740	1831	452	83.3
	国保直営総合病院 君津中央病院	集計対象	1372	1039	124	84.8
	独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	集計対象	961	762	142	94.1
	船橋市立医療センター	集計対象	1483	895	294	80.2
	千葉大学医学部附属病院	集計対象	3397	1739	858	76.4
	独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター	集計対象	1010	715	95	80.2
	東京歯科大学市川総合病院	集計対象	1291	892	125	78.8
	順天堂大学医学部附属浦安病院	集計対象	1622	1182	189	84.5
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	集計対象	1826	1290	319	88.1
	国保松戸市立病院	集計対象	1214	627	130	62.4
	日本医科大学千葉北総病院	集計対象	1067	762	171	87.4
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	集計対象	6538	2455	2000	68.1
	東京都立駒込病院	集計対象	4285	2037	1032	71.6
	青梅市立総合病院	集計対象	1202	896	93	82.3



都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
	NTT 東日本関東病院	集計対象	1941	1117	479	82.2
	日本赤十字社医療センター	集計対象	2248	917	327	55.3
	日本大学医学部附属板橋病院	集計対象	2765	1483	333	65.7
	武蔵野赤十字病院	集計対象	2208	1520	331	83.8
	がん研有明病院	集計対象	8779	3252	2705	67.9
	国立大学法人 東京大学医学部附属病院	集計対象	3747	1811	852	71.1
	日本医科大学付属病院	集計対象	2594	1593	516	81.3
	聖路加国際病院	集計対象	2334	1259	605	79.9
	帝京大学医学部附属病院	集計対象	2152	1226	424	76.7
	杏林大学医学部付属病院	集計対象	2424	1763	424	90.2
	順天堂大学医学部附属順天堂医院	集計対象	3834	2057	1004	79.8
	昭和大学病院	集計対象	2549	1462	539	78.5
	慶應義塾大学病院	集計対象	3564	1788	707	70.0
	東京都立多摩総合医療センター	集計対象	2596	1474	704	83.9
	公立昭和病院	集計対象	1544	1088	267	87.8
	東京慈恵会医科大学附属病院	集計対象	3295	1893	677	78.0
	虎の門病院	集計対象	2739	1567	1013	94.2
	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	集計対象	2127	1401	361	82.8
	東京医科歯科大学医学部附属病院	集計対象	2737	1343	729	75.7
	東京都立墨東病院	集計対象	1427	1002	180	82.8
	独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	集計対象	974	627	167	81.5
神奈川	神奈川県立がんセンター	集計対象	3350	1549	1089	78.7
	国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院	集計対象	2207	1610	353	88.9
	横浜州市市民病院	集計対象	1640	1084	317	85.4
	神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院	集計対象	1212	767	102	71.7
	公立大学法人横浜市立大学附属病院	集計対象	2296	1102	643	76.0
	聖マリアンナ医科大学病院	集計対象	2764	1637	613	81.4
	東海大学医学部付属病院	集計対象	3706	2261	774	81.9
	藤沢市民病院	集計対象	1168	833	220	90.2
	北里大学病院	集計対象	1907	1342	460	94.5
	横浜労災病院	集計対象	1795	1151	186	74.5
	昭和大学横浜市北部病院	集計対象	2057	1279	444	83.8
	横浜市立みなと赤十字病院	集計対象	1458	866	194	72.7
	大和市立病院	集計対象	982	680	78	77.2
	独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院	集計対象	1007	688	111	79.3
	恩賜財団済生会横浜市東部病院	集計対象	1850	1076	375	78.4
	横浜市立大学附属市民総合医療センター	集計対象	2283	1640	392	89.0
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院	集計対象	3065	1922	963	94.1
	新潟県立中央病院	集計対象	1413	988	302	91.3
	新潟市民病院	集計対象	1742	1219	389	92.3
	長岡赤十字病院	集計対象	1761	1276	289	88.9
	新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院	集計対象	1610	1151	388	95.6
	新潟大学医歯学総合病院	集計対象	2153	995	741	80.6
	県立新発田病院	集計対象	1232	834	225	86.0
	独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院	集計対象	462	394	38	93.5
富山	富山県立中央病院	集計対象	2409	1596	503	87.1
	黒部市民病院	集計対象	633	508	63	90.2
	独立行政法人労働者安全福祉機構富山労災病院	集計対象	273	215	13	83.5
	富山大学附属病院	集計対象	1137	745	222	85.0
	厚生連高岡病院	集計対象	1258	975	157	90.0
	高岡市民病院	集計対象	627	489	42	84.7
石川	国立大学法人金沢大学附属病院	集計対象	2116	1032	476	71.3
	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター	集計対象	714	591	77	93.6
	石川県立中央病院	集計対象	1712	1100	533	95.4

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
	金沢医科大学病院	集計対象	1209	804	178	81.2
	小松市民病院	集計対象	738	512	93	82.0
福井	福井県立病院	集計対象	1570	1030	287	83.9
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会 病院	集計対象	1513	1074	272	89.0
	福井赤十字病院	集計対象	1195	925	151	90.0
	福井大学医学部附属病院	集計対象	1243	755	311	85.8
山梨	山梨県立中央病院		1846	1213	286	81.2
	山梨大学医学部附属病院	集計対象	1763	1053	306	77.1
長野	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター	集計対象	1839	1215	483	92.3
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院	集計対象	2176	981	621	73.6
	諏訪赤十字病院	集計対象	1149	769	185	83.0
	飯田市立病院	集計対象	961	638	156	82.6
	長野市民病院	集計対象	1660	1116	404	91.6
	長野赤十字病院	集計対象	1569	954	315	80.9
	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院	集計対象	1346	941	156	81.5
	伊那中央病院	集計対象	899	569	188	84.2
	長野県厚生農業協同組合連合会 北信総合病院	集計対象	552	461	56	93.7
岐阜	岐阜市民病院		1291	957	163	86.8
	国立大学法人 岐阜大学医学部附属病院		2011	1069	585	82.2
	高山赤十字病院	集計対象	633	416	56	74.6
	岐阜県総合医療センター	集計対象	1588	1111	255	86.0
	岐阜県立多治見病院	集計対象	1425	901	258	81.3
	大垣市民病院	集計対象	2070	1739	237	95.5
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院	集計対象	1087	613	196	74.4
静岡	静岡県立静岡がんセンター	集計対象	6482	2775	1928	72.6
	静岡県立総合病院	集計対象	2506	1613	580	87.5
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷 三方原病院	集計対象	1508	881	230	73.7
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷 浜松病院	集計対象	1965	1366	352	87.4
	順天堂大学医学部附属静岡病院	集計対象	1407	1030	192	86.9
	静岡市立静岡病院		1250	995	118	89.0
	藤枝市立総合病院	集計対象	1107	860	99	86.6
	浜松医科大学医学部附属病院	集計対象	1485	849	375	82.4
	浜松医療センター	集計対象	1139	839	137	85.7
	磐田市立総合病院	集計対象	1408	978	172	81.7
	富士市立中央病院		763	436	64	65.5
愛知	愛知県がんセンター中央病院	集計対象	3031	1090	1482	84.9
	愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	集計対象	2038	1456	274	84.9
	海南病院	集計対象	1308	942	97	79.4
	国立病院機構 名古屋医療センター	集計対象	1720	1078	238	76.5
	小牧市民病院	集計対象	1797	1361	206	87.2
	豊橋市民病院	集計対象	2246	1543	337	83.7
	名古屋大学医学部附属病院		2594	1432	743	83.8
	一宮市立市民病院	集計対象	280	196	65	93.2
	公立陶生病院	集計対象	1218	983	107	89.5
	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	集計対象	1498	1104	173	85.2
	名古屋市立大学病院		1735	1032	472	86.7
	名古屋第一赤十字病院	集計対象	2228	1585	341	86.4
	名古屋第二赤十字病院	集計対象	2115	1356	333	79.9
	藤田保健衛生大学病院	集計対象	2794	1392	952	83.9
三重	日本赤十字社 伊勢赤十字病院	集計対象	1694	1176	292	86.7
	松阪中央総合病院		781	559	76	81.3
	三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院		1103	852	101	86.4

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
滋賀	市立長浜病院	集計対象	637	544	46	92.6
	滋賀県立成人病センター	集計対象	1424	824	245	75.1
	大津赤十字病院	集計対象	1413	1057	181	87.6
	公立甲賀病院		442	379	18	89.8
	彦根市立病院	集計対象	694	507	44	79.4
	滋賀医科大学医学部附属病院	集計対象	1521	893	388	84.2
京都	京都市立病院	集計対象	1291	816	112	71.9
	京都第一赤十字病院	集計対象	1498	1078	201	85.4
	京都第二赤十字病院	集計対象	1569	1185	208	88.8
	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター		1730	1043	277	76.3
	市立福知山市民病院	集計対象	877	532	105	72.6
	京都岡本記念病院		644	343	21	56.5
	大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター	集計対象	1968	1355	304
市立岸和田市民病院		集計対象	1213	885	149	85.2
地方独立行政法人市立東大阪医療センター		集計対象	1192	903	126	86.3
市立豊中病院		集計対象	2075	1565	247	87.3
大阪国際がんセンター		集計対象	3413	1498	1376	84.2
独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター		集計対象	2804	1611	645	80.5
大阪赤十字病院		集計対象	2397	1849	244	87.3
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター		集計対象	917	593	178	84.1
独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院		集計対象	1657	1204	256	88.1
大阪医科大学附属病院		集計対象	2323	1215	748	84.5
大阪市立大学医学部附属病院		集計対象	3480	1574	1015	74.4
国立病院機構 大阪医療センター		集計対象	1498	972	341	87.7
八尾市立病院		集計対象	911	692	154	92.9
兵庫	兵庫県立がんセンター	集計対象	3924	1734	1248	76.0
	神戸大学医学部附属病院	集計対象	3507	1598	971	73.3
	神戸市立医療センター中央市民病院	集計対象	2517	1397	516	76.0
	独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院	集計対象	1833	1046	371	77.3
	公立学校共済組合近畿中央病院	集計対象	783	593	93	87.6
	姫路赤十字病院	集計対象	1676	1098	360	87.0
	赤穂市民病院	集計対象	486	382	21	82.9
	公立豊岡病院組合立豊岡病院	集計対象	953	750	101	89.3
	兵庫県立淡路医療センター	集計対象	739	542	90	85.5
	兵庫医科大学病院	集計対象	2629	1395	523	73.0
	兵庫県立柏原病院	集計対象	277	130	48	64.3
	神戸市立西神戸医療センター		1456	968	204	80.5
	奈良	奈良県立医科大学附属病院	集計対象	2474	1296	615
奈良県総合医療センター		集計対象	1008	635	217	84.5
天理よろづ相談所病院		集計対象	2140	1785	235	94.4
市立奈良病院		集計対象	768	526	101	81.6
南和広域企業団南奈良総合医療センター			193	116	15	67.9
和歌山	紀南病院	集計対象	664	423	102	79.1
	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター		661	360	139	75.5
	日本赤十字社和歌山医療センター	集計対象	2005	1659	213	93.4
	和歌山県立医科大学附属病院		2621	1323	893	84.5
	橋本市民病院		522	399	39	83.9
	公立那賀病院		624	407	76	77.4
鳥取	鳥取県立厚生病院	集計対象	516	361	46	78.9
	独立行政法人国立病院機構米子医療センター	集計対象	480	325	59	80.0
	鳥取県立中央病院	集計対象	779	652	67	92.3
	鳥取市立病院	集計対象	644	514	69	90.5
	鳥取大学医学部附属病院	集計対象	1795	1156	405	87.0

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2）	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3）	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
島根	松江市立病院	集計対象	801	576	91	83.3
	松江赤十字病院	集計対象	1150	919	134	91.6
	島根大学医学部附属病院	集計対象	1209	687	349	85.7
	島根県立中央病院	集計対象	1245	970	143	89.4
	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	集計対象	713	533	87	87.0
岡山	岡山済生会総合病院		1718	1122	293	82.4
	岡山赤十字病院	集計対象	1015	755	111	85.3
	岡山大学病院	集計対象	2750	1238	882	77.1
	津山中央病院		1336	845	127	72.8
	川崎医科大学附属病院	集計対象	1565	941	315	80.3
広島	県立広島病院	集計対象	1604	976	273	77.9
	広島赤十字・原爆病院	集計対象	1364	1042	179	89.5
	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター	集計対象	1621	954	226	72.8
	東広島医療センター	集計対象	821	429	125	67.5
	福山市民病院	集計対象	1542	925	343	82.2
山口	市立三次中央病院		700	500	90	84.3
	山口県立総合医療センター	集計対象	770	545	120	86.4
	国立病院機構 岩国医療センター	集計対象	1028	691	124	79.3
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院	集計対象	679	466	80	80.4
	独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院	集計対象	1425	985	210	83.9
徳島	国立大学法人 山口大学医学部附属病院	集計対象	1905	958	580	80.7
	徳島県立中央病院	集計対象	1031	797	122	89.1
	徳島大学病院	集計対象	1808	889	545	79.3
	徳島赤十字病院		1155	803	196	86.5
	徳島市民病院	集計対象	829	544	164	85.4
香川	香川県立中央病院	集計対象	1480	943	324	85.6
	独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院	集計対象	1351	970	209	87.3
	三豊総合病院	集計対象	996	700	90	79.3
	高松赤十字病院	集計対象	1289	871	182	81.7
	国立大学法人 香川大学医学部附属病院	集計対象	1467	730	443	80.0
愛媛	市立宇和島病院	集計対象	1199	803	168	81.0
	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	集計対象	3036	1499	841	77.1
	住友別子病院	集計対象	588	396	50	75.9
	愛媛大学医学部附属病院	集計対象	1739	809	486	74.5
	愛媛県立中央病院	集計対象	1931	1275	285	80.8
	松山赤十字病院	集計対象	1536	1121	144	82.4
	社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院	集計対象	547	262	89	64.2
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院	集計対象	1674	1037	444	88.5
	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	集計対象	1400	855	428	91.6
	高知県立幡多けんみん病院	集計対象	749	473	89	75.0
福岡	久留米大学病院	集計対象	3070	1437	688	69.2
	公立八女総合病院	集計対象	527	366	64	81.6
	地方独立行政法人大牟田市立病院	集計対象	770	450	129	75.2
	社会保険田川病院	集計対象	654	451	52	76.9
	飯塚病院	集計対象	1935	1378	270	85.2
	北九州市立医療センター	集計対象	2331	1353	607	84.1
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	集計対象	2693	1171	701	69.5
	国立大学法人 九州大学病院	集計対象	3908	1705	1065	70.9
	独立行政法人国立病院機構九州医療センター	集計対象	2079	1293	419	82.3
	福岡県済生会福岡総合病院	集計対象	1461	839	263	75.4
	福岡大学病院	集計対象	1948	1062	505	80.4
	聖マリア病院	集計対象	1208	827	46	72.3
	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院	集計対象	2024	1324	358	83.1
佐賀	産業医科大学病院	集計対象	1919	1140	421	81.3
	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館	集計対象	1286	732	227	74.6

都道府県	施設名称	集計対象	全登録数	自施設 診断自 施設治 療（症 例区分 2)	他施設 診断自 施設治 療（症 例区分 3)	自施設 治療 （症例 区分2, 3）登録 割合
長崎	国立大学法人 佐賀大学医学部附属病院		1878	855	547	74.7
	唐津赤十字病院	集計対象	736	447	94	73.5
	独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター	集計対象	774	496	103	77.4
	日本赤十字社長崎原爆病院	集計対象	1078	776	213	91.7
	佐世保市総合医療センター		1542	1035	357	90.3
	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター		1679	1094	331	84.9
	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなと メディカルセンター		936	662	97	81.1
	国立大学法人 長崎大学病院	集計対象	2437	1194	841	83.5
	長崎県島原病院		669	496	95	88.3
	熊本	熊本大学医学部附属病院	集計対象	2879	1478	812
独立行政法人労働者労働者健康安全機構熊本労災 病院		集計対象	638	424	80	79.0
人吉医療センター		集計対象	716	432	70	70.1
熊本赤十字病院		集計対象	1435	975	222	83.4
国立病院機構 熊本医療センター		集計対象	1551	920	266	76.5
済生会熊本病院		集計対象	1665	1005	354	81.6
荒尾市民病院		集計対象	404	261	55	78.2
大分		大分県立病院	集計対象	1464	989	288
	大分赤十字病院	集計対象	783	484	141	79.8
	大分大学医学部附属病院	集計対象	1568	737	447	75.5
	独立行政法人国立病院機構別府医療センター		734	508	127	86.5
	大分県済生会日田病院	集計対象	385	209	37	63.9
	中津市立中津市民病院	集計対象	626	391	124	82.3
	宮崎	宮崎県立宮崎病院	集計対象	1028	735	191
国立病院機構 都城医療センター		集計対象	716	462	138	83.8
国立大学法人宮崎大学医学部附属病院		集計対象	1602	806	401	75.3
鹿児島	鹿児島大学病院		2099	916	702	77.1
	国立病院機構 鹿児島医療センター	集計対象	714	365	192	78.0
	鹿児島県立薩南病院		175	103	27	74.3
	独立行政法人国立病院機構 南九州病院	集計対象	280	176	57	83.2
	県民健康プラザ鹿屋医療センター	集計対象	459	204	116	69.7
	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院	集計対象	890	432	208	71.9
	出水郡医師会広域医療センター		306	170	56	73.9
	社会医療法人博愛会相良病院		932	561	128	73.9
沖縄	地方独立行政法人 那覇市立病院	集計対象	896	504	176	75.9
	北部地区医師会病院		228	150	12	71.1
	沖縄県立中部病院	集計対象	999	577	168	74.6
	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院	集計対象	1115	486	336	73.7
	沖縄県立宮古病院	集計対象	191	104	(7-9)	58.1

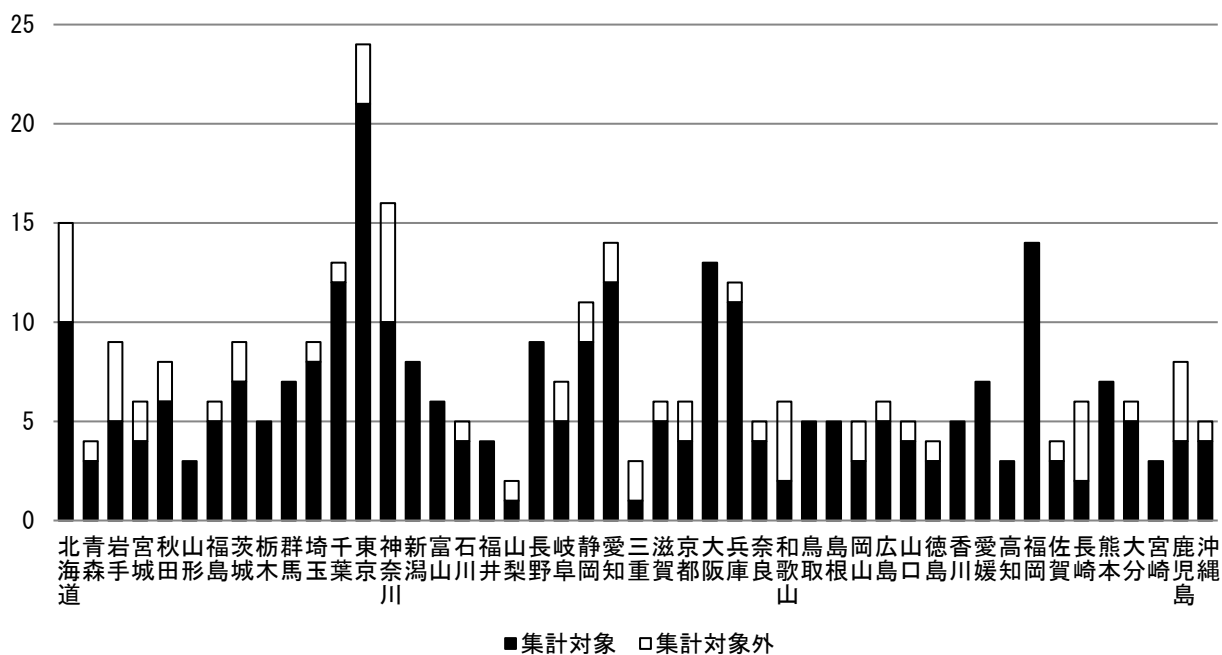


図 2-1 都道府県・施設別生存状況把握割合



### Ⅲ 2012年3年生存率集計 結果詳細(全体) : 悪性新生物<腫瘍>

#### 1. 全がん

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	467, 775	286	378, 564	339, 599	339, 498	122	339, 376

#### (0) 全がんの生存率集計値

全がんでの生存率集計値の算定に当たり、特性が異なるがんの生存率算定の意義について疑問を呈する声もあったが、先行する地域がん登録、全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における既存生存率集計と比較するため、ここでは院内がん登録2012年3年生存率集計においても全がんでの生存率集計結果について提示する。

#### (1) 生存状況把握割合

対象者は339,376例で、その内3年以内に死亡していた者は109,933例、打ち切りが8,615例であった。全体として、生存状況把握割合は97.5%であった。

#### (2) 対象者の属性

本集計対象者の属性を表3-1-1に示す。男性が57.9%、女性が42.1%とやや男性が多かった。診断時の年齢は、男女とも70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代、70歳代で全体の約60%を占めた。約60%の対象者に観血的治療が実施されており、そのうちの約53.9%が原発巣・治癒切除であった。発見経緯別にみると、その他・不明が半数以上であった。部位別にみると、男性では胃、肺、前立腺、大腸の順に、女性では乳房、大腸、胃の順に多かった。

表 3-1-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	196,361	100.0	143,015	100.0	339,376	100.0
年齢						
0-14 歳	672	0.3	578	0.4	1,250	0.4
15-39 歳	3,770	1.9	7,379	5.2	11,149	3.3
40 歳代	6,549	3.3	14,771	10.3	21,320	6.3
50 歳代	20,648	10.5	21,276	14.9	41,924	12.4
60 歳代	61,166	31.1	36,431	25.5	97,597	28.8
70 歳代	70,446	35.9	37,256	26.1	107,702	31.7
80 歳以上	33,110	16.9	25,324	17.7	58,434	17.2
観血的治療						
有	106,994	54.5	98,054	68.6	205,048	60.4
原発巣・治癒切除	95,162	48.5	87,594	61.2	182,756	53.9
原発巣・非治癒切除	8,846	4.5	7,489	5.2	16,335	4.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	2,986	1.5	2,971	2.1	5,957	1.8
無	89,367	45.5	44,961	31.4	134,328	39.6
発見経緯						
がん検診	14,096	7.2	12,803	9.0	26,899	7.9
健康診断・人間ドック	17,622	9.0	9,171	6.4	26,793	7.9
他疾患経過観察中	64,159	32.7	35,151	24.6	99,310	29.3
その他・不明	100,484	51.2	85,890	60.1	186,374	54.9
部位						
口腔咽頭	7,504	3.8	2,879	2.0	10,383	3.1
食道	9,473	4.8	1,622	1.1	11,095	3.3
胃	34,483	17.6	14,434	10.1	48,917	14.4
結腸	14,202	7.2	12,021	8.4	26,223	7.7
直腸	9,431	4.8	5,309	3.7	14,740	4.3
大腸（再掲）	23,633	12.0	17,330	12.1	40,963	12.1
肝臓	9,732	5.0	4,432	3.1	14,164	4.2
胆嚢胆管	3,903	2.0	3,082	2.2	6,985	2.1
膵臓	6,430	3.3	4,939	3.5	11,369	3.3
喉頭	2,890	1.5	209	0.1	3,099	0.9
肺	29,175	14.9	13,501	9.4	42,676	12.6
骨軟部	1,100	0.6	851	0.6	1,951	0.6
皮膚	4,441	2.3	4,278	3.0	8,719	2.6
乳房	183	0.1	29,661	20.7	29,844	8.8
子宮頸部	-		5,967	4.2	5,967	1.8
子宮体部	-		6,985	4.9	6,985	2.1
子宮	-		21	0.0	21	0.0
卵巢	-		4,384	3.1	4,384	1.3
前立腺	26,839	13.7	-		26,839	7.9
膀胱	4,955	2.5	1,509	1.1	6,464	1.9
腎尿路	6,879	3.5	3,025	2.1	9,904	2.9
脳神経	3,728	1.9	4,873	3.4	8,601	2.5
甲状腺	1,596	0.8	4,375	3.1	5,971	1.8
悪性リンパ腫	6,932	3.5	5,959	4.2	12,891	3.8
多発性骨髄腫	1,512	0.8	1,248	0.9	2,760	0.8
白血病	2,903	1.5	2,001	1.4	4,904	1.4
その他の血液	2,593	1.3	1,538	1.1	4,131	1.2
その他	5,477	2.8	3,912	2.7	9,389	2.8

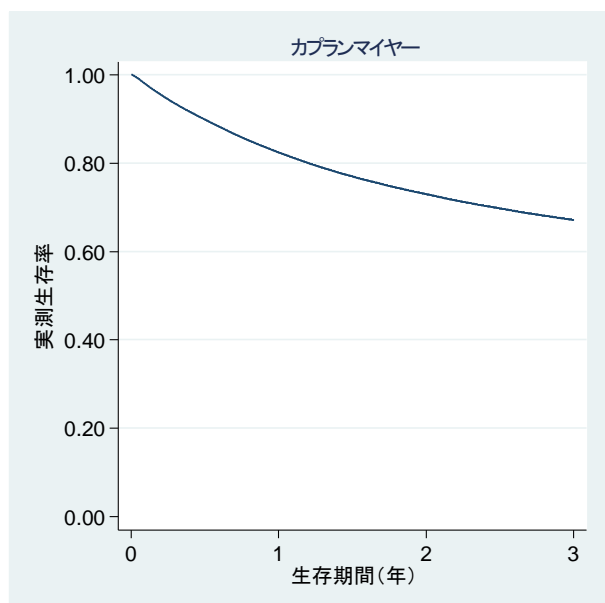


(3)3年生存率

表 3-1-2 に、2012 年例における実測生存率及び相対生存率を示す。年齢が高いほど実測生存率と相対生存率との乖離が大きくなっているが、これは若年者と比較して高齢者ではがん以外の要因で死亡する例が多くなることが影響していると考えられる。観血的治療の実施別にみると、男女ともに観血的治療有、特に原発巣・治癒切除例において生存率が高くなっていた。

表 3-1-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
年齢	62.9	68.8	68.6	69.1	73.1	76.4	76.2	76.7	67.2	72.1	71.9	72.2
0-14 歳	86.2	86.3	83.4	88.7	86.5	86.5	83.4	89.1	86.3	86.4	84.3	88.2
15-39 歳	81.2	81.4	80.1	82.6	89.6	89.7	89.0	90.4	86.8	86.9	86.2	87.5
40 歳代	75.0	75.4	74.3	76.5	88.9	89.2	88.7	89.7	84.7	85.0	84.5	85.5
50 歳代	71.1	72.3	71.6	72.9	83.2	83.8	83.3	84.3	77.3	78.2	77.7	78.6
60 歳代	67.6	70.3	69.9	70.7	77.5	78.7	78.3	79.2	71.3	73.5	73.2	73.8
70 歳代	62.4	68.8	68.4	69.2	68.6	71.7	71.2	72.2	64.6	69.8	69.5	70.1
80 歳以上	44.9	60.0	59.3	60.8	50.4	60.8	60.0	61.5	47.3	60.4	59.9	60.9
観血的治療												
有	42.6	47.1	46.8	47.5	87.3	90.8	90.6	91.0	83.4	88.7	88.5	88.9
原発巣・治癒切除	82.5	89.7	89.5	90.0	90.1	93.7	93.5	93.9	86.2	91.7	91.5	91.8
原発巣・非治癒切除	53.8	58.2	57.0	59.3	58.9	61.1	60.0	62.3	56.15	59.53	58.72	60.34
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	69.1	74.8	72.9	76.6	77.8	80.6	79.0	82.1	73.4	77.7	76.5	78.9
無	79.8	86.7	86.4	87.0	41.8	44.3	43.9	44.8	42.3	46.2	45.9	46.5



## 2. 胃(C16)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2012	54,742	286	48,935	48,925	48,920	(1-3)	48,917

## (1) 生存状況把握割合

集計対象者は、48,917例で、3年以内に死亡していた者は14,738例、打ち切りが1,226例で、生存状況把握割合は、全体で97.5%であった。

## (2) 対象者の属性

胃の集計対象者の属性を表3-2-1に示す。性別にみると、男性が7割以上を占めた。診断時の年齢は、

70歳代が最も多く、次いで60歳代となっており、60歳代・70歳代で全体の約6割以上を占めた。UICC TNM分類総合ステージを見ると、I期が約6割、次いでIV期が約16%を占めた。約8割において観血的治療が実施されており、約75%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約3割であった。

表3-2-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	34,483	100.0	14,434	100.0	48,917	100.0
年齢						
0-14歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39歳	243	0.7	253	1.8	496	1.0
40歳代	825	2.4	657	4.6	1,482	3.0
50歳代	3,476	10.1	1,421	9.8	4,897	10.0
60歳代	10,641	30.9	3,660	25.4	14,301	29.2
70歳代	13,090	38.0	4,925	34.1	18,015	36.8
80歳以上	6,206	18.0	3,518	24.4	9,724	19.9
UICC TNM 分類総合ステージ						
I期	21,361	61.9	8,313	57.6	29,674	60.7
II期	3,055	8.9	1,298	9.0	4,353	8.9
III期	3,449	10.0	1,568	10.9	5,017	10.3
IV期	5,466	15.9	2,493	17.3	7,959	16.3
不詳	422	1.2	188	1.3	610	1.2
空欄	730	2.1	574	4.0	1,304	2.7
観血的治療						
有	27,831	80.7	11,590	80.3	39,421	80.6
原発巣・治癒切除	26,097	75.7	10,800	74.8	36,897	75.4
原発巣・非治癒切除	1,424	4.1	659	4.6	2,083	4.3
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	310	0.9	131	0.9	441	0.9
無	6,652	19.3	2,844	19.7	9,496	19.4
発見経緯						
がん検診	3,637	10.5	1,352	9.4	4,989	10.2
健康診断・人間ドック	4,600	13.3	1,459	10.1	6,059	12.4
他疾患経過観察中	11,431	33.1	4,074	28.2	15,505	31.7
その他・不明	14,815	43.0	7,549	52.3	22,364	45.7

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

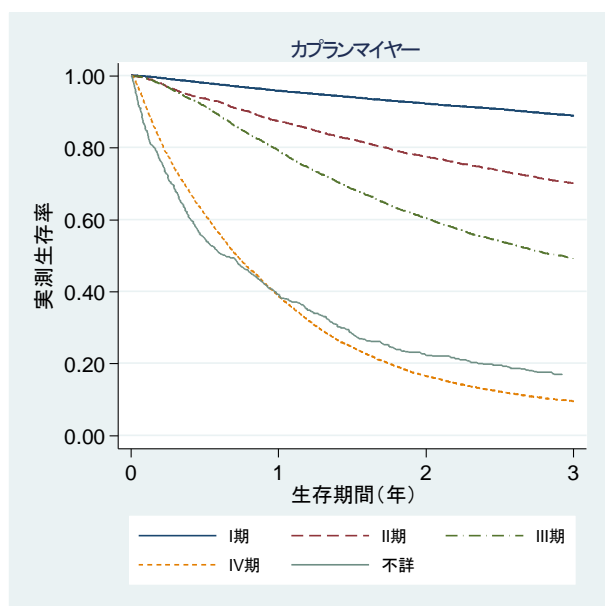
(3)3年生存率

男女別に見た3年相対生存率はほぼ同様であった。年代別にみると、70歳以上では相対生存率と実測生存率の差が広がる傾向がある。また、観血的治療を受けた者では、相対生存率は全体で90%以上であった。

表 3-2-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	68.8	75.7	75.2	76.3	71.1	75.3	74.5	76.1	69.5	75.6	75.1	76.0
年齢												
15-39歳	69.4	69.6	63.2	75.1	66.4	66.5	60.2	72.0	67.8	68.0	63.6	72.0
40歳代	77.4	77.9	74.8	80.6	76.2	76.4	72.9	79.5	76.8	77.2	75.0	79.3
50歳代	78.0	79.3	77.9	80.7	76.5	77.1	74.7	79.2	77.6	78.7	77.4	79.8
60歳代	74.6	77.6	76.7	78.4	76.8	78.0	76.6	79.4	75.2	77.7	76.9	78.4
70歳代	68.9	75.9	75.0	76.8	74.3	77.7	76.4	79.0	70.4	76.4	75.7	77.1
80歳以上	52.4	69.5	67.9	71.2	57.7	68.5	66.5	70.4	54.3	69.2	67.9	70.4
UICC TNM 総合ステージ*												
I期	87.7	96.6	96.1	97.1	92.0	97.6	97.0	98.2	88.9	96.9	96.5	97.3
II期	68.5	75.4	73.5	77.2	74.2	78.9	76.3	81.4	70.2	76.4	74.9	77.9
III期	48.0	52.4	50.6	54.2	52.1	54.8	52.2	57.4	49.3	53.2	51.7	54.7
IV期	9.3	10.1	9.3	10.9	10.4	10.9	9.7	12.2	9.7	10.3	9.6	11.1
不詳	19.3	23.2	18.8	28.1	12.4	14.3	9.3	20.4	17.2	20.4	16.9	24.2
観血的治療												
有	82.4	90.3	89.8	90.8	85.3	90.0	89.3	90.6	83.3	90.2	89.8	90.6
原発巣・治癒切除	85.0	93.0	92.5	93.5	88.5	93.3	92.6	93.9	86.0	93.1	92.7	93.5
原発巣・非治癒切除	38.1	42.7	39.8	45.5	34.9	37.0	33.1	40.9	37.1	40.8	38.5	43.1
原発巣・治癒/非治癒の	69.6	76.7	70.6	82.0	76.7	80.5	71.8	87.2	71.7	77.9	73.0	82.2
別不詳												
無	11.5	13.1	12.2	14.0	12.5	13.8	12.4	15.2	11.8	13.3	12.6	14.0

\*癌腫のみ対象



## 3. 大腸(C18-20)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2012	62,716	286	54,017	41,015	41,006	43	40,963

## (1) 生存状況把握割合

集計対象 40,963 例のうち、3 年以内に死亡していた者は 10,993 例、打ち切りが 964 例で、全体として生存状況把握割合は 97.6%であった。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-3-1 に示す。性別にみると、女性より男性がやや多く、約 6 割を占めた。診断時の年齢は、男女ともに 70 歳代が最も多く、次いで 60 歳代が多くな

っていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体では I、II、III 期ともに約 25%前後にばらついていた。9 割近くの対象者が観血的治療を受けており、約 78%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 24%、がん検診が約 10%、健康診断・人間ドックが 7~9%であった。結腸、直腸別にみると、結腸が約 6 割を占め、性別にみると男性より女性では結腸の割合が多かった。

表 3-3-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	23,633	100.0	17,330	100.0	40,963	100.0
年齢						
0-14歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39歳	304	1.3	305	1.8	609	1.5
40歳代	994	4.2	894	5.2	1,888	4.6
50歳代	2,926	12.4	2,125	12.3	5,051	12.3
60歳代	7,553	32.0	4,484	25.9	12,037	29.4
70歳代	7,887	33.4	5,290	30.5	13,177	32.2
80歳以上	3,966	16.8	4,232	24.4	8,198	20.0
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	6,340	26.8	4,096	23.6	10,436	25.5
II 期	6,141	26.0	4,563	26.3	10,704	26.1
III 期	5,713	24.2	4,632	26.7	10,345	25.3
IV 期	4,637	19.6	3,505	20.2	8,142	19.9
不詳	324	1.4	242	1.4	566	1.4
空欄	478	2.0	292	1.7	770	1.9
観血的治療						
有	20,519	86.8	15,084	87.0	35,603	86.9
原発巣・治癒切除	18,591	78.7	13,598	78.5	32,189	78.6
原発巣・非治癒切除	1,648	7.0	1,267	7.3	2,915	7.1
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	280	1.2	219	1.3	499	1.2
無	3,114	13.2	2,246	13.0	5,360	13.1
発見経緯						
がん検診	2,496	10.6	1,894	10.9	4,390	10.7
健康診断・人間ドック	2,054	8.7	1,290	7.4	3,344	8.2
他疾患経過観察中	5,941	25.1	3,933	22.7	9,874	24.1
その他・不明	13,142	55.6	10,213	58.9	23,355	57.0
部位						
結腸	14,202	60.1	12,021	69.4	26,223	64.0
直腸	9,431	39.9	5,309	30.6	14,740	36.0

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

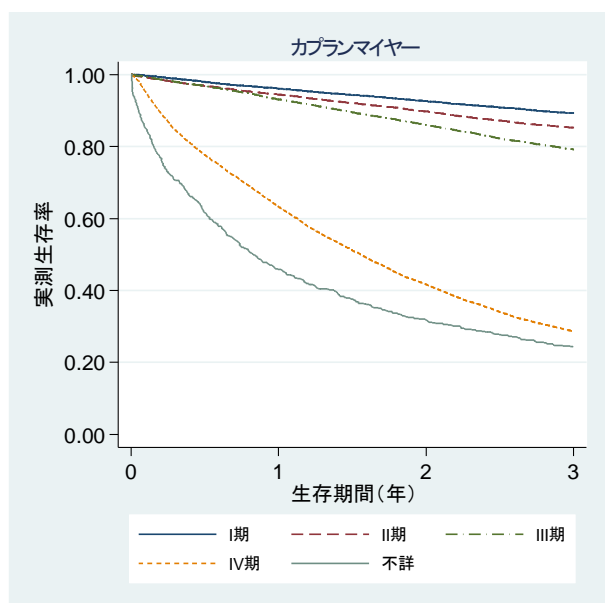
(3)3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-3-2に示す。3年相対生存率は、男女ともほぼ同様であり全体では約78-79%であった。他の部位と同様、年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなるが、これは高齢者ほど他疾患で亡くなる例が少ないためと考えられる。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I期では約96%、II期では約93%であった。観血的治療を受けた例は、相対生存率は87%を超えており、原発巣・治癒切除例においては約92%であった。

表3-3-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	72.3	79.1	78.5	79.8	73.5	78.0	77.3	78.7	72.8	78.7	78.2	79.1
年齢												
15-39歳	77.1	77.3	72.1	81.7	78.9	79.0	74.0	83.3	78.0	78.2	74.6	81.3
40歳代	79.5	80.0	77.3	82.4	79.1	79.4	76.5	81.9	79.3	79.7	77.8	81.5
50歳代	81.6	82.9	81.4	84.3	79.9	80.5	78.7	82.2	80.9	81.9	80.8	83.0
60歳代	77.4	80.5	79.5	81.5	80.9	82.2	81.0	83.3	78.7	81.1	80.4	81.9
70歳代	71.6	78.9	77.7	79.9	75.4	78.8	77.6	80.0	73.1	78.8	78.0	79.6
80歳以上	54.9	74.0	71.9	76.1	58.4	70.6	68.8	72.4	56.7	72.2	70.8	73.6
UICC TNM 総合ステージ												
I期	87.8	96.1	95.2	97.0	91.7	97.0	96.0	97.8	89.3	96.4	95.8	97.1
II期	84.1	93.4	92.3	94.3	86.8	93.4	92.3	94.4	85.3	93.4	92.6	94.1
III期	78.1	85.0	83.8	86.2	80.6	85.3	84.1	86.5	79.2	85.2	84.3	86.0
IV期	29.7	32.0	30.5	33.4	27.3	28.5	27.0	30.1	28.7	30.5	29.4	31.5
不詳	26.8	30.5	25.1	36.1	20.9	24.5	18.7	30.8	24.3	28.0	24.0	32.2
観血的治療												
有												
原発巣・治癒切除	80.7	88.2	87.6	88.8	82.2	87.1	86.4	87.7	81.3	87.7	87.3	88.1
原発巣・非治癒切除	44.1	47.6	45.0	50.2	40.3	42.2	39.4	45.1	42.5	45.3	43.3	47.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	58.1	63.3	56.7	69.4	63.3	67.1	59.9	73.5	60.4	65.0	60.2	69.5
無	16.5	18.3	16.8	19.7	14.1	15.4	13.8	17.0	15.5	17.1	16.0	18.2
部位												
結腸	71.0	78.6	77.8	79.4	71.9	76.8	75.9	77.6	71.4	77.8	77.2	78.4
直腸	74.3	80.0	79.0	80.9	77.1	80.9	79.7	82.0	75.3	80.3	79.5	81.0

\*癌腫のみ対象



## 4. 肝(C22)

	集計対象施設 全登録数	集計対象施 設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	18,550	286	14,169	14,166	14,166	(1-3)	14,164

## (1) 生存状況把握割合

対象者は、14,164 例で、そのうち 3 年以内に死亡していた者は 6,934 例、打ち切りが 357 例であった。全体として、生存状況把握割合は 97.5%であった。

性が約 69%を占めた。年代をみると、70 歳代が最も多く男性で約 37%、女性では約 44%を占めた。UICC TNM 総合ステージ別にみると、全体で I 期が約 39%、II 期が約 28%、III 期が約 16%となっていた。約 34%に観血的治療が実施されていた。発見経緯としては、他疾患経過観察中が約 65%を占めた。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-4-1 に示す。性別にみると、男

表 3-4-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	9,732	100.0	4,432	100.0	14,164	100.0
年齢						
0-14 歳	15	0.2	14	0.3	29	0.2
15-39 歳	67	0.7	32	0.7	99	0.7
40 歳代	269	2.8	59	1.3	328	2.3
50 歳代	1,127	11.6	245	5.5	1,372	9.7
60 歳代	3,115	32.0	986	22.2	4,101	29.0
70 歳代	3,628	37.3	1,960	44.2	5,588	39.5
80 歳以上	1,511	15.5	1,136	25.6	2,647	18.7
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	3,582	36.8	1,963	44.3	5,545	39.1
II 期	2,799	28.8	1,221	27.5	4,020	28.4
III 期	1,691	17.4	501	11.3	2,192	15.5
IV 期	1,340	13.8	567	12.8	1,907	13.5
不詳	185	1.9	84	1.9	269	1.9
空欄	135	1.4	96	2.2	231	1.6
取扱い規約治療前ステージ						
I 期	1,684	17.3	1,103	24.9	2,787	19.7
II 期	3,269	33.6	1,509	34.0	4,778	33.7
III 期	2,319	23.8	847	19.1	3,166	22.4
IV 期	2,065	21.2	748	16.9	2,813	19.9
不詳	276	2.8	141	3.2	417	2.9
空欄	119	1.2	84	1.9	203	1.4
観血的治療						
有	3,003	30.9	1,857	41.9	4,860	34.3
原発巣・治癒切除	2,746	28.2	978	22.1	3,724	26.3
原発巣・非治癒切除	172	1.8	71	1.6	243	1.7
原発巣・治癒/非治癒	85	0.9	32	0.7	117	0.8
の別不詳						
無	6,729	69.1	4,573	103.2	11,302	79.8
発見経緯						
がん検診	74	0.8	17	0.4	91	0.6
健康診断・人間ドック	433	4.4	93	2.1	526	3.7
他疾患経過観察中	6,185	63.6	3,085	69.6	9,270	65.4
その他・不明	3,040	31.2	1,237	27.9	4,277	30.2

取扱い規約治療前ステージが 0 期の者を若干名含む

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3)3年生存率

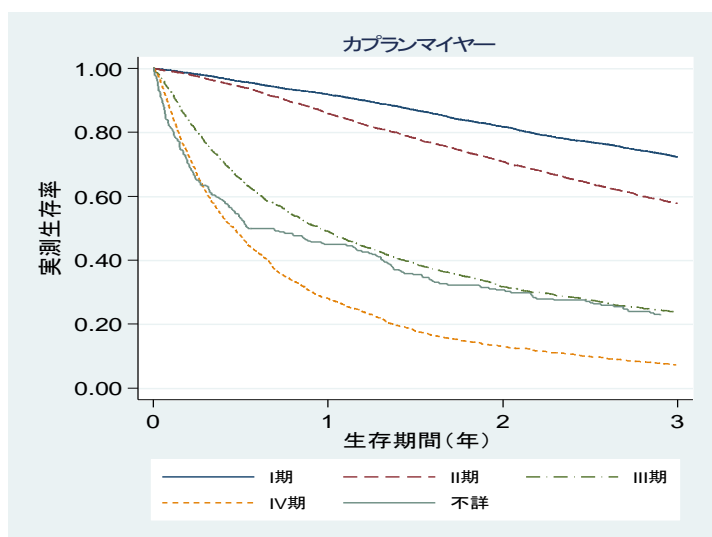
2012年診断例の3年生存率を表3-4-2に示す。全体として、相対生存率は54.6%で、男性が54.7%、女性が54.4%であった。他の部位と比較して、年代による実測生存率と相対生存率の差はやや小さくなっており、予後があまり良くないことを示唆している。UICC TNM分類別にみると、I期では相対生存率は全体で78.5%、男性が80.0%、女性が75.9%である。観血的治療を受けた例の割合は約3割であるが、観血的治療を受けた者の相対生存率は78.2%であった。

表3-4-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	50.0	54.7	53.6	55.7	51.2	54.4	52.8	56.0	50.3	54.6	53.7	55.5
年齢												
0-14歳									63.8	63.8	43.1	78.7
15-39歳	65.1	65.3	52.4	75.5	56.0	56.1	37.3	71.2	62.1	62.2	51.8	71.1
40歳代	52.2	52.5	46.2	58.4	55.3	55.5	41.8	67.2	52.7	53.0	47.4	58.4
50歳代	53.7	54.6	51.6	57.6	59.1	59.5	53.0	65.5	54.7	55.5	52.8	58.2
60歳代	53.1	55.2	53.3	57.0	59.7	60.7	57.5	63.7	54.6	56.5	54.9	58.1
70歳代	50.3	55.6	53.8	57.4	52.4	54.9	52.5	57.2	51.0	55.3	53.9	56.8
80歳以上	38.8	51.0	47.7	54.2	39.2	45.9	42.5	49.2	39.0	48.7	46.3	51.0
UICC TNM 総合ステージ												
I期	73.0	80.0	78.4	81.6	71.3	75.9	73.7	78.0	72.4	78.5	77.2	79.8
II期	58.9	64.3	62.3	66.3	55.3	58.5	55.5	61.5	57.8	62.5	60.8	64.2
III期	25.0	27.5	25.3	29.8	19.7	21.1	17.5	25.0	23.8	26.0	24.1	28.0
IV期	7.1	7.6	6.2	9.2	7.9	8.3	6.1	10.8	7.3	7.8	6.6	9.1
不詳	24.6	27.6	20.7	34.9	19.0	20.9	12.4	31.0	22.9	25.5	20.0	31.4
取扱い規約治療前ステージ												
I期	78.0	84.2	82.0	86.3	76.7	81.1	78.3	83.7	77.4	83.0	81.3	84.6
II期	67.0	73.7	71.9	75.5	64.6	68.8	66.2	71.4	66.2	72.1	70.7	73.6
III期	43.7	48.0	45.7	50.2	37.8	40.3	36.8	43.8	42.1	45.9	44.0	47.8
IV期	10.7	11.7	10.3	13.2	7.4	7.8	5.9	10.0	9.9	10.6	9.5	11.9
不詳	32.9	36.5	30.4	42.8	29.4	31.2	23.4	39.5	31.7	34.7	29.8	39.7
観血的治療												
有	73.1	79.0	77.2	80.7	73.1	76.2	73.4	78.9	73.1	78.2	76.7	79.7
原発巣・治癒切除	75.8	81.8	80.0	83.5	76.1	79.3	76.4	82.0	75.8	81.2	79.6	82.6
原発巣・非治癒切除	40.7	43.6	35.6	51.3	42.1	43.8	31.8	55.4	41.1	43.6	37.0	50.2
除												
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	53.8	58.1	45.8	69.0	50.7	52.8	33.3	69.4	53.0	56.6	46.3	66.0
無	39.5	43.6	42.3	44.9	44.0	47.2	45.3	49.0	41.0	44.8	43.7	45.8

取扱い規約治療前ステージが0期の者が含まれる

\*癌腫のみ対象



## 5. 肺(C33-34)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	52,753	286	42,795	42,682	42,680	(4-6)	42,676

## (1) 生存状況把握割合

対象者は、42,676 例で、そのうち 3 年以内に死亡していた者は、22,318 例、打ち切りが 890 例で、全体として生存状況把握割合は 97.9%であった。

37%、次いでⅣ期が約 33%、Ⅲ期が約 19%であった。観血的治療を受けた者の割合は、胃や大腸と比較してやや低く、約 45%であった。観血的治療有で、原発巣・治癒切除例が約 43%であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約 38%、健康診断・人間ドックが約 13%、がん検診が約 7%であった。組織形態でみると、小細胞癌が約 9%含まれていた。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-5-1 に示す。対象者は、男性が約 68%を占め、70 歳代が最も多かった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、全体としてⅠ期が約

表 3-5-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	29,175	100.0	13,501	100.0	42,676	100.0
年齢						
0-14 歳	0	0.0	(1-3)		(1-3)	
15-39 歳	168	0.6	139	1.0	307	0.7
40 歳代	656	2.2	444	3.3	1,100	2.6
50 歳代	2,508	8.6	1,414	10.5	3,922	9.2
60 歳代	9,300	31.9	4,271	31.6	13,571	31.8
70 歳代	11,123	38.1	4,851	35.9	15,974	37.4
80 歳以上	5,420	18.6	2,380	17.6	7,800	18.3
UICC TNM 分類総合ステージ*						
Ⅰ期	9,401	32.2	6,536	48.4	15,937	37.3
Ⅱ期	2,929	10.0	816	6.0	3,745	8.8
Ⅲ期	6,202	21.3	1,825	13.5	8,027	18.8
Ⅳ期	10,100	34.6	4,112	30.5	14,212	33.3
不詳	428	1.5	112	0.8	540	1.3
空欄	115	0.4	100	0.7	215	0.5
観血的治療						
有	11,671	40.0	7,459	55.2	19,130	44.8
原発巣・治癒切除	10,978	37.6	7,203	53.4	18,181	42.6
原発巣・非治癒切除	501	1.7	201	1.5	702	1.6
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	192	0.7	55	0.4	247	0.6
無	17,504	60.0	6,042	44.8	23,546	55.2
発見経緯						
がん検診	1,881	6.4	1,208	8.9	3,089	7.2
健康診断・人間ドック	3,583	12.3	1,942	14.4	5,525	12.9
他疾患経過観察中	11,000	37.7	5,276	39.1	16,276	38.1
その他・不明	12,711	43.6	5,075	37.6	17,786	41.7
組織形態						
小細胞癌	3,188	10.9	649	4.8	3,837	9.0
非小細胞癌	25,987	89.1	12,852	95.2	38,839	91.0

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換



(3)3年生存率

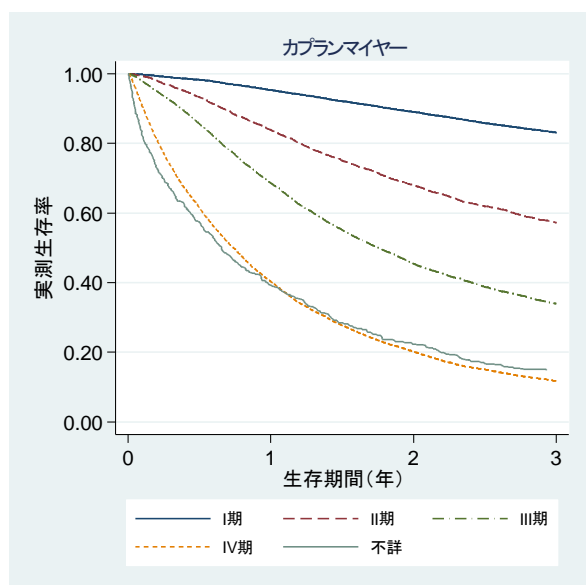
2012年診断例の3年生存率を表3-5-2に示す。全体での3年相対生存率は、50.8%、男性が43.4%、女性が66.3%であった。男性と比較して女性では、UICC TNM分類総合ステージのI期の割合が多く、UICC TNM分類総合ステージ別にみても、男性より女性において実測生存率、相対生存率ともにやや高くなっていた。年代による実測生存率と相対生存率の差は、肝と同様、胃や大腸と比較して小さかった。

UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約90%であるのに対し、II期以降では65%未満と低くなっている。観血的治療の実施割合は、全体で約45%程度であるが、相対生存率は約87%であった。また、組織形態別にみると、小細胞癌では非小細胞癌と比較して相対生存率が低い傾向が認められた。

表3-5-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	39.6	43.4	42.8	44.0	63.4	66.3	65.4	67.1	47.1	50.8	50.3	51.3
年齢												
15-39歳	46.9	47.0	39.2	54.4	73.4	73.5	65.0	80.2	58.6	58.7	52.9	64.1
40歳代	50.9	51.2	47.3	55.0	71.8	72.1	67.6	76.1	59.4	59.7	56.7	62.6
50歳代	49.1	49.9	47.9	51.9	71.4	71.9	69.5	74.2	57.2	58.0	56.4	59.5
60歳代	44.5	46.3	45.3	47.4	69.5	70.6	69.1	72.0	52.4	54.0	53.2	54.9
70歳代	39.3	43.4	42.4	44.4	64.1	67.0	65.6	68.4	46.9	50.7	49.9	51.6
80歳以上	25.4	33.4	31.9	34.9	43.8	51.2	48.9	53.6	31.0	39.1	37.8	40.4
UICC TNM 総合ステージ												
I期	76.4	84.4	83.5	85.4	92.8	97.0	96.3	97.6	83.1	89.7	89.1	90.3
II期	52.4	57.6	55.5	59.6	74.6	78.3	75.0	81.3	57.3	62.2	60.5	63.9
III期	29.7	32.2	31.0	33.4	48.9	51.0	48.6	53.4	34.1	36.5	35.4	37.7
IV期	8.2	8.9	8.3	9.5	20.7	21.6	20.3	22.9	11.8	12.6	12.0	13.2
不詳	13.1	15.8	12.1	19.9	22.3	25.3	17.0	34.6	15.0	17.8	14.4	21.6
観血的治療												
有	74.9	81.2	80.3	82.1	91.8	95.1	94.4	95.7	81.5	86.7	86.1	87.3
原発巣・治癒切除	76.8	83.2	82.4	84.1	92.6	95.9	95.3	96.6	83.1	88.4	87.8	89.0
原発巣・非治癒切除	40.1	43.4	38.7	48.1	63.5	65.9	58.6	72.4	46.8	50.0	46.0	53.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	59.9	64.3	56.4	71.4	87.1	91.0	78.2	97.8	66.0	70.3	63.6	76.3
無	15.7	17.5	16.9	18.2	27.7	29.5	28.3	30.7	18.8	20.7	20.1	21.2
組織形態												
小細胞癌	16.4	17.8	16.4	19.2	19.2	19.8	16.7	23.1	16.9	18.1	16.9	19.5
非小細胞癌	42.4	46.6	45.9	47.2	65.6	68.6	67.7	69.5	50.1	54.0	53.5	54.6

\*癌腫のみ対象



## 6. 女性乳房(C50)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	46,493	286	34,297	29,684	29,675	14	29,661

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、29,661 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 2,144 例、打ち切りが 622 例であった。集計対象全体での生存状況把握割合は 97.9%であった。

## (2) 対象者の属性

対象者の属性を表 3-6-1 に示す。診断時の年齢をみると、60 歳代が 26.3%と最も多く、次いで 40、50 歳代が約 21%程度であった。また、35 歳未満は、581 例であった(約 2.0%)。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期が最も多く約 45%、次いで II 期が約 37%であった。観血的治療の実施割合は、約 90%であった。発見経緯を見ると、大腸や肺と比較してがん検診、健康診断・人間ドックがやや多かった。

表 3-6-1 対象者の属性

	対象数	(%)
全体	29,661	100.0
年齢		
15-39 歳	1,926	6.5
40 歳代	6,440	21.7
50 歳代	6,313	21.3
60 歳代	7,807	26.3
70 歳代	4,846	16.3
80 歳以上	2,329	7.9
35 歳未満 (再掲)	581	2.0
UICC TNM 分類総合ステージ*		
I 期	13,356	45.0
II 期	10,858	36.6
III 期	3,545	12.0
IV 期	1,693	5.7
不詳	141	0.5
空欄	68	0.2
観血的治療		
有	26,542	89.5
原発巣・治癒切除	24,784	83.6
原発巣・非治癒切除	1,213	4.1
原発巣・治癒/非治癒	545	1.8
癒の別不詳		
無	3,119	10.5
発見経緯		
がん検診	6,231	21.0
健康診断・人間ドック	1,618	5.5
他疾患経過観察中	3,910	13.2
その他・不明	17,902	60.4

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 3 年生存率

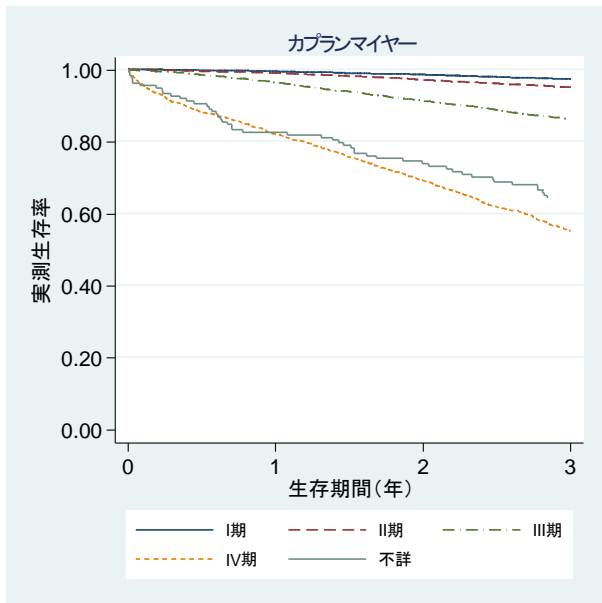
2012 年診断例の 3 年生存率を表 3-6-2 に示す。全体として、相対生存率は 95.2%であり、どの年代にお

いても相対生存率は 90%を超えていた。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期、II 期では相対生存率は 95%以上であるが、IV 期では約 57%にとどまった。なお、観血的治療を受けた者では、治癒切除・非治癒切除に関わらず相対生存率は約 90%を超えていた。

表 3-6-2 属性別 3 年相対生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	92.7	95.2	94.9	95.5
年齢				
15-39 歳	94.8	94.9	93.8	95.8
40 歳代	96.4	96.8	96.3	97.2
50 歳代	94.0	94.6	94.0	95.2
60 歳代	93.7	95.1	94.6	95.7
70 歳代	91.0	94.9	94.0	95.7
80 歳以上	77.1	93.0	90.9	95.1
35 歳未満 (再掲)	94.0	94.1	91.8	95.8
UICC TNM 総合ステージ*				
I 期	97.4	99.8	99.5	100.0
II 期	95.2	97.8	97.4	98.2
III 期	86.5	89.2	88.0	90.4
IV 期	55.2	56.6	54.1	59.0
不詳	64.5	71.5	61.9	79.6
観血的治療				
有	96.2	98.5	98.3	98.7
原発巣・治癒切除	96.5	98.9	98.6	99.1
原発巣・非治癒切除	90.8	93.3	91.5	94.9
原発巣・治癒/非治癒	90.8	93.2	90.4	95.4
の別不詳				
無	62.6	66.0	64.2	67.8

\*癌腫のみ対象



## 7. 食道(C15)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2012	15,123	286	12,675	11,100	11,098	(1-3)	11,095

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、11,095例で、3年以内に亡くなっていた者が5,473例、打ち切りが261例であった。全体として生存状況把握割合は、97.6%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-7-1に示す。集計対象のうち男性が約85%、女性が約15%であった。年齢分布をみると、60歳代が約37%と最も多く、次いで70歳代が約35%、50歳代が約13%となっていた。UICC TNM分類総合ステージをみると、I期が最も多く約38%、次いでIII期が約30%、IV期が約17%、II期が約13%であった。観血的治療の実施割合は全体で約52%であり、約46%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約26%であった。

表3-7-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	9,473	100.0	1,622	100.0	11,095	100.0
年齢						
0-14歳						
15-39歳	21	0.2	15	0.9	36	0.3
40歳代	185	2.0	61	3.8	246	2.2
50歳代	1,200	12.7	215	13.3	1,415	12.8
60歳代	3,626	38.3	527	32.5	4,153	37.4
70歳代	3,362	35.5	538	33.2	3,900	35.2
80歳以上	1,079	11.4	266	16.4	1,345	12.1
UICC TNM 分類総合ステージ						
I期	3,659	38.6	548	33.8	4,207	37.9
II期	1,160	12.2	239	14.7	1,399	12.6
III期	2,856	30.1	519	32.0	3,375	30.4
IV期	1,579	16.7	260	16.0	1,839	16.6
不詳	152	1.6	33	2.0	185	1.7
空欄	67	0.7	23	1.4	90	0.8
観血的治療						
有	4,897	51.7	812	50.1	5,709	51.5
原発巣・治癒切除	4,380	46.2	729	44.9	5,109	46.0
原発巣・非治癒切除	381	4.0	57	3.5	438	3.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	136	1.4	26	1.6	162	1.5
無	4,576	48.3	810	49.9	5,386	48.5
発見経緯						
がん検診	364	3.8	41	2.5	405	3.7
健康診断・人間ドック	885	9.3	84	5.2	969	8.7
他疾患経過観察中	2,562	27.0	331	20.4	2,893	26.1
その他・不明	5,662	59.8	1,166	71.9	6,828	61.5

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

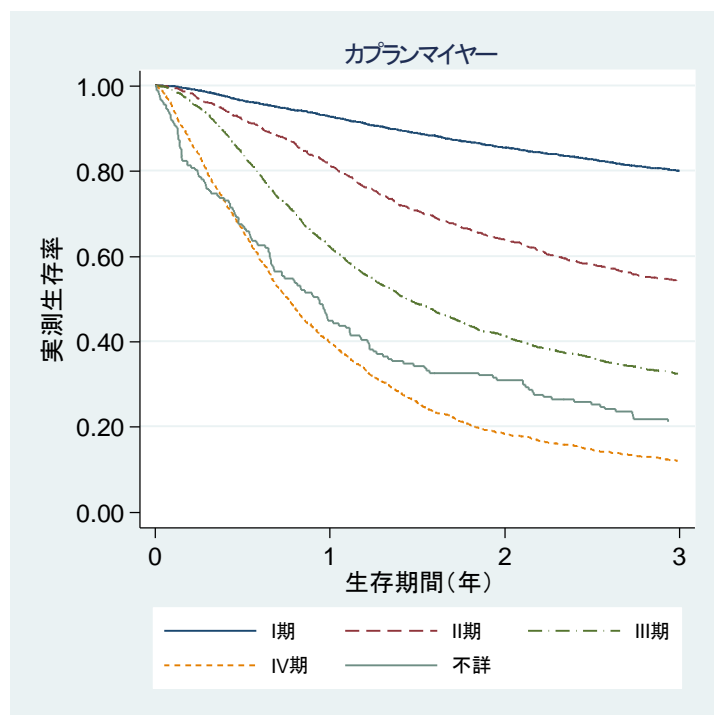
(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-7-2に示す。全体での相対生存率は、53.6%であり、男性が53.4%、女性が55.1%であった。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、3年相対生存率はI期が約86%、II期が約58%、III期が約35%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約78%であった。また原発巣・治癒切除例の相対生存率は約81%であった。男女における併存症など対象者の個人属性の違いが定かではないが、UICC TNM分類総合ステージ別、年齢別に見ても男性より女性で若干相対生存率が高い傾向が認められた。

表3-7-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	49.5	53.4	52.3	54.5	52.8	55.1	52.5	57.6	50.0	53.6	52.6	54.6
年齢												
15-39歳									52.8	52.9	35.6	67.6
40歳代	54.8	55.2	47.6	62.1	59.3	59.5	45.8	70.9	55.9	56.2	49.7	62.3
50歳代	54.1	55.0	52.0	57.8	60.8	61.2	54.3	67.5	55.1	55.9	53.2	58.5
60歳代	54.2	56.4	54.7	58.1	57.7	58.6	54.2	62.8	54.7	56.7	55.1	58.2
70歳代	48.4	53.1	51.2	55.0	51.6	53.8	49.3	58.2	48.8	53.2	51.5	54.9
80歳以上	31.0	40.9	37.2	44.6	36.3	42.9	36.0	49.8	32.0	41.3	38.1	44.6
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	79.6	86.2	84.7	87.5	82.3	86.2	82.6	89.4	80.0	86.2	84.8	87.4
II期	54.2	58.3	55.1	61.4	55.2	57.6	50.8	64.0	54.3	58.2	55.3	61.0
III期	31.2	33.5	31.7	35.4	40.1	41.6	37.2	46.0	32.6	34.8	33.1	36.5
IV期	11.5	12.2	10.6	14.0	16.1	16.6	12.2	21.6	12.1	12.8	11.3	14.5
不詳	20.5	22.9	16.1	30.5	27.1	30.3	14.6	48.4	21.5	24.0	17.6	31.0
観血的治療												
有	73.6	78.6	77.2	79.9	75.2	77.7	74.4	80.6	73.8	78.4	77.2	79.6
原発巣・治癒切除	76.2	81.4	80.0	82.7	77.6	80.2	76.9	83.2	76.4	81.2	80.0	82.5
原発巣・非治癒切除	47.5	50.7	45.2	56.0	49.3	51.1	36.9	63.9	47.7	50.7	45.6	55.7
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	60.2	64.2	54.8	72.3	61.5	63.2	41.5	79.3	60.5	64.0	55.6	71.5
無	23.5	25.8	24.4	27.1	30.0	31.7	28.4	35.2	24.5	26.7	25.4	28.0

\*癌腫が対象



## 8. 膵臓(C25)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2012	14,660	286	11,564	11,371	11,370	(1-3)	11,369

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、11,369例で、3年以内に亡くなっていた者が9,439例、打ち切りが218例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は98.1%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-8-1に示す。集計対象者は、男性が約57%、女性が約43%で、全体で11,369例であった。診断時の年齢分布は、70歳代が約35%と最も多く、次いで60歳代が約31%、80歳以上が約19%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布をみると、Ⅳ期が最も多く約48%、次いでⅡ期が約27%、Ⅲ期が約15%であった。観血的治療の実施割合は、約28%で男女による差はなかった。約23%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約29%であった。

表3-8-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	6,430	100.0	4,939	100.0	11,369	100.0
年齢						
15-39歳	55	0.9	46	0.9	101	0.9
40歳代	220	3.4	129	2.6	349	3.1
50歳代	772	12.0	457	9.3	1,229	10.8
60歳代	2,150	33.4	1,372	27.8	3,522	31.0
70歳代	2,233	34.7	1,747	35.4	3,980	35.0
80歳以上	1,000	15.6	1,188	24.1	2,188	19.2
UICC TNM分類総合ステージ						
Ⅰ期	400	6.2	310	6.3	710	6.2
Ⅱ期	1,755	27.3	1,358	27.5	3,113	27.4
Ⅲ期	938	14.6	803	16.3	1,741	15.3
Ⅳ期	3,138	48.8	2,263	45.8	5,401	47.5
不詳	122	1.9	140	2.8	262	2.3
空欄	77	1.2	65	1.3	142	1.2
観血的治療						
有	1,857	28.9	1,371	27.8	3,228	28.4
原発巣・治癒切除	1,527	23.7	1,134	23.0	2,661	23.4
原発巣・非治癒切除	268	4.2	177	3.6	445	3.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	62	1.0	60	1.2	122	1.1
無	4,573	71.1	3,568	72.2	8,141	71.6
発見経緯						
がん検診	47	0.7	29	0.6	76	0.7
健康診断・人間ドック	294	4.6	167	3.4	461	4.1
他疾患経過観察中	1,947	30.3	1,390	28.1	3,337	29.4
その他・不明	4,142	64.4	3,353	67.9	7,495	65.9

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

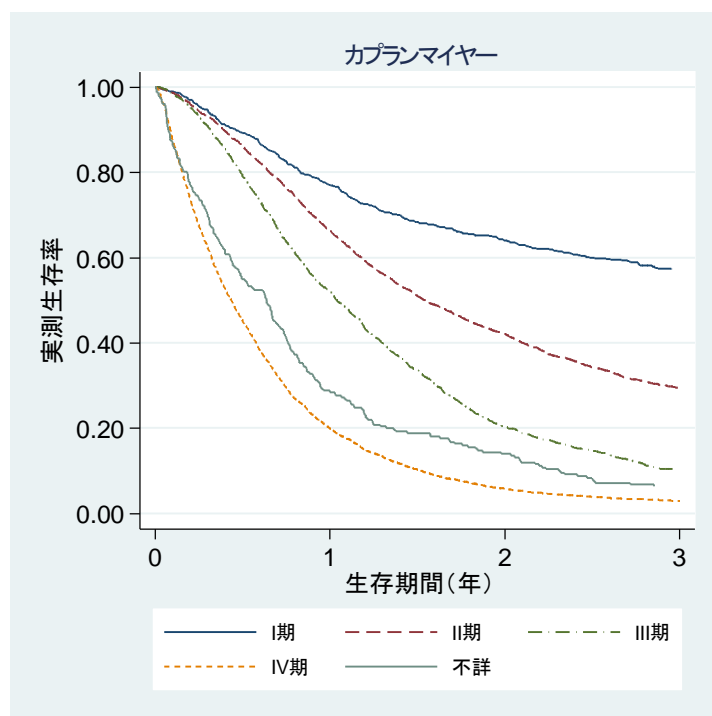
(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-8-2に示す。3年相対生存率は、全体で約17%であった。肝や肺と同様、実測生存率と相対生存率の差は他の部位と比較して小さく、予後があまり良くないがんと考えられる。年代別にみても、実測生存率、相対生存率はほぼ同程度であった。但し、15-39歳、40歳代では対象者数がやや少なく95%信頼区間の幅が広がっている点に留意する必要がある。UICC TNM分類総合ステージ別にみると、相対生存率はI期が約62%、II期が約32%、III期が約11%、IV期が約3%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は約47%であり、原発巣・治癒切除例のみをみても相対生存率は約50%にとどまった。

表3-8-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	15.2	16.5	15.5	17.4	16.7	17.5	16.4	18.6	15.8	16.9	16.2	17.7
年齢												
15-39歳	30.3	30.4	18.8	42.8	61.9	62.0	46.1	74.4	44.5	44.6	34.6	54.1
40歳代	21.4	21.6	16.3	27.4	33.8	34.0	25.8	42.2	26.0	26.2	21.6	31.0
50歳代	18.2	18.4	15.7	21.3	21.8	22.0	18.3	25.9	19.5	19.8	17.5	22.1
60歳代	16.2	16.9	15.3	18.6	20.2	20.5	18.4	22.8	17.8	18.3	17.0	19.7
70歳代	14.8	16.3	14.7	18.0	16.9	17.7	15.9	19.6	15.7	16.9	15.7	18.2
80歳以上	9.2	12.1	9.9	14.7	6.6	7.7	6.1	9.5	7.8	9.7	8.3	11.2
UICC TNM分類総合ステージ												
I期	53.3	59.2	53.6	64.5	62.4	65.9	59.9	71.4	57.3	62.2	58.1	66.0
II期	29.0	31.5	29.2	33.8	30.1	31.5	29.0	34.1	29.5	31.5	29.8	33.3
III期	10.1	10.9	8.9	13.2	10.4	10.8	8.7	13.2	10.2	10.9	9.4	12.5
IV期	2.8	3.0	2.4	3.6	3.4	3.5	2.8	4.4	3.0	3.2	2.7	3.7
不詳	7.9	9.1	4.5	15.8	5.5	6.2	2.7	11.6	6.7	7.5	4.5	11.6
観血的治療												
有	41.8	44.9	42.5	47.4	48.1	49.9	47.1	52.6	44.5	47.1	45.2	48.9
原発巣・治癒切除	46.5	50.0	47.3	52.7	52.4	54.4	51.3	57.4	49.0	51.9	49.9	53.9
原発巣・非治癒切除	16.1	17.2	12.8	22.3	20.7	21.5	15.6	28.1	17.9	18.9	15.3	22.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	37.2	39.7	26.9	52.5	45.1	46.9	33.3	59.6	41.1	43.3	33.9	52.4
無	4.2	4.6	4.0	5.3	4.4	4.6	3.9	5.4	4.3	4.6	4.1	5.1

\*癌腫が対象



### 9. 子宮頸部(C53)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	18,293	279	15,567	5,981	5,980	13	5,967

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、5,967 例で、3 年以内に亡くなっていた者は 1,290 例、打ち切りが 202 例であった。集計対象全体の生存状況把握割合は 96.6%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-9-1 に示す。診断時の年齢を見ると、40 歳代、15~39 歳と比較的若い年代が多かった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が約 44%と最も多く、次いでIII期が約 23%、II期が約 17%であった。観血的治療の実施割合は約 58%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 17%、健康診断・人間ドックが約 3%であった。

表 3-9-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	5,967	100.0
年齢		
15-39 歳	1,275	21.4
40 歳代	1,443	24.2
50 歳代	990	16.6
60 歳代	1,061	17.8
70 歳代	730	12.2
80 歳以上	468	7.8
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	2,640	44.2
II 期	992	16.6
III 期	1,396	23.4
IV 期	847	14.2
不詳	63	1.1
空欄	29	0.5
観血的治療		
有	3,480	58.3
原発巣・治癒切除	3,122	52.3
原発巣・非治癒切除	230	3.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	128	2.1
無	2,487	41.7
発見経緯		
がん検診	1,022	17.1
健康診断・人間ドック	185	3.1
他疾患経過観察中	613	10.3
その他・不明	4,147	69.5

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3 年生存率

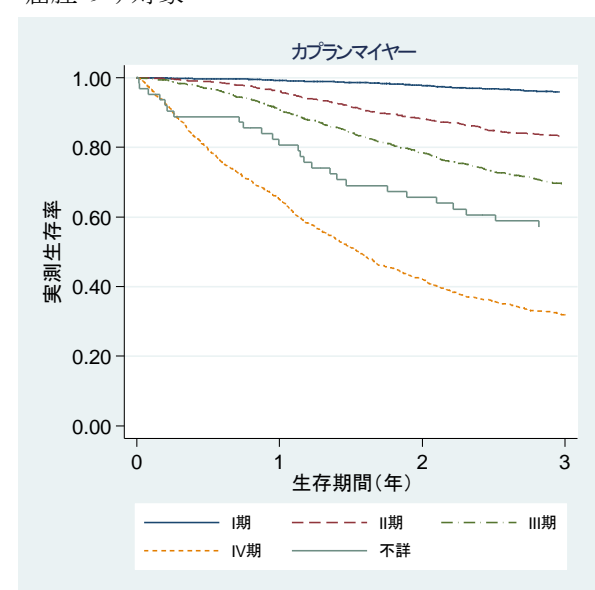
2012 年診断例の 3 年生存率を表 3-9-2 に示す。全体として、実測生存率が約 78%、相対生存率が約 80%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別に相対生存率をみると、I 期が約 97%、II 期が約 86%、III

期が約 71%、IV 期が約 33%であった。観血的治療実施例では相対生存率は約 93%であり、その内、原発巣・治癒切除例では約 95%であった。

表 3-9-2 属性別 3 年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	78.0	79.6	78.5	80.7
年齢				
15-39 歳	89.9	90.0	88.2	91.6
40 歳代	84.4	84.7	82.7	86.5
50 歳代	78.5	79.0	76.3	81.5
60 歳代	77.1	78.2	75.5	80.7
70 歳代	67.2	70.2	66.5	73.6
80 歳以上	43.2	52.2	46.6	57.6
UICC TNM 分類 総合ステージ				
I 期	96.0	97.2	96.4	97.9
II 期	83.2	85.9	83.3	88.1
III 期	69.4	71.2	68.6	73.7
IV 期	31.9	32.8	29.6	36.1
不詳	57.2	61.4	47.0	73.6
観血的治療				
有	92.3	93.0	92.1	93.9
原発巣・治癒 切除	94.0	94.7	93.8	95.5
原発巣・非治癒 切除	75.9	76.6	70.3	81.7
原発巣・治癒 /非治癒の別不 詳	80.1	81.1	72.9	87.1
無	57.8	60.4	58.3	62.4

\*癌腫のみ対象





10. 子宮体部(C54)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99歳	除外	集計対象
2012	8,317	280	7,018	6,986	6,985	0	6,985

(1) 生存状況把握割合

集計対象は、6,985例で、3年以内に亡くなっていた者が1,109例、打ち切りが115例であった。集計対象全体として、生存状況把握割合は98.4%であった。

(2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-10-1に示す。診断時の年齢を見ると、50歳代が約3割と最も多く、次いで60歳代が約28%、70歳代が約16%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I期が約64%、II期が約6%、III期が約12%、IV期が約7%であった。観血的治療の実施割合は、約91%であり、約82%が原発巣・治癒切除例であった。発見経緯をみると、他疾患経過観察中が約15%であった。

表3-10-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	6,985	100.0
年齢		
0-14歳	(1-3)	
15-39歳	369	5.3
40歳代	1,038	14.9
50歳代	2,065	29.6
60歳代	1,945	27.8
70歳代	1,113	15.9
80歳以上	454	6.5
UICC TNM 分類総合ステージ		
I期	4,444	63.6
II期	420	6.0
III期	855	12.2
IV期	520	7.4
不詳	101	1.4
空欄	645	9.2
観血的治療		
有	6,368	91.2
原発巣・治癒切除	5,729	82.0
原発巣・非治癒切除	343	4.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	296	4.2
無	617	8.8
発見経緯		
がん検診	472	6.8
健康診断・人間ドック	155	2.2
他疾患経過観察中	1,047	15.0
その他・不明	5,311	76.0

\*癌腫のみ対象(子宮内膜)、癌腫以外は空欄へ変換

(3) 3年生存率

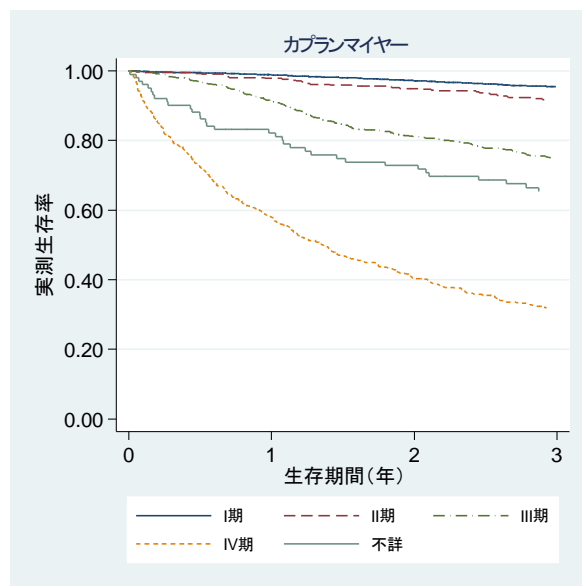
2012年診断例の3年生存率を表3-10-2に示す。

全体での3年実測生存率は約84%、相対生存率が約86%であった。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I期が約98%、II期が約94%、III期が約77%、IV期が約33%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、約91%であり、原発巣・治癒切除例では93%を超えていた。

表3-10-2 属性別3年生存率

	女性			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	84.0	85.9	85.0	86.8
年齢				
15-39歳	92.0	92.1	88.8	94.5
40歳代	91.9	92.2	90.3	93.7
50歳代	89.0	89.6	88.2	90.9
60歳代	84.0	85.3	83.6	86.9
70歳代	77.9	81.2	78.6	83.7
80歳以上	51.1	60.4	54.8	65.8
UICC TNM 総合ステージ				
I期	95.6	97.6	96.9	98.1
II期	91.6	94.1	90.9	96.4
III期	75.0	76.7	73.6	79.6
IV期	31.8	32.6	28.5	36.8
不詳	65.3	67.7	57.0	76.6
観血的治療				
有	88.9	90.6	89.8	91.4
原発巣・治癒切除	91.8	93.6	92.8	94.3
原発巣・非治癒切除	46.1	47.1	41.6	52.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	80.9	83.1	78.0	87.3
無	33.0	35.1	31.1	39.1

\*癌腫のみ対象(子宮内膜)



## 11. 前立腺(C61)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	35,392	286	26,857	26,840	26,839	0	26,839

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、26,839 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 2,577 例、打ち切りが 654 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は 97.6%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-11-1 に示す。診断時の年齢は、70 歳代が約 45%、80 歳以上が約 15%で、70 歳以上が半数以上を占めた。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が最も多く約 40%であった。観血的治療の実施割合は、約 31%であった。発見経緯を見ると、がん検診が約 19%、健康診断・人間ドックが約 11%であった。

表 3-11-1 対象者の属性

	全体	
	対象数	(%)
全体	26,839	100.0
年齢		
0-14 歳	(4-6)	
15-39 歳	(1-3)	
40 歳代	77	0.3
50 歳代	1,644	6.1
60 歳代	9,131	34.0
70 歳代	12,091	45.1
80 歳以上	3,889	14.5
UICC TNM 分類総合ステージ		
I 期	10,652	39.7
II 期	7,807	29.1
III 期	3,970	14.8
IV 期	3,937	14.7
不詳	395	1.5
空欄	78	0.3
観血的治療		
有	8,257	30.8
原発巣・治癒切除	6,844	25.5
原発巣・非治癒切除	1,129	4.2
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	284	1.1
無	18,582	69.2
発見経緯		
がん検診	5,196	19.4
健康診断・人間ドック	2,845	10.6
他疾患経過観察中	9,869	36.8
その他・不明	8,929	33.3

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

## (3) 3 年生存率

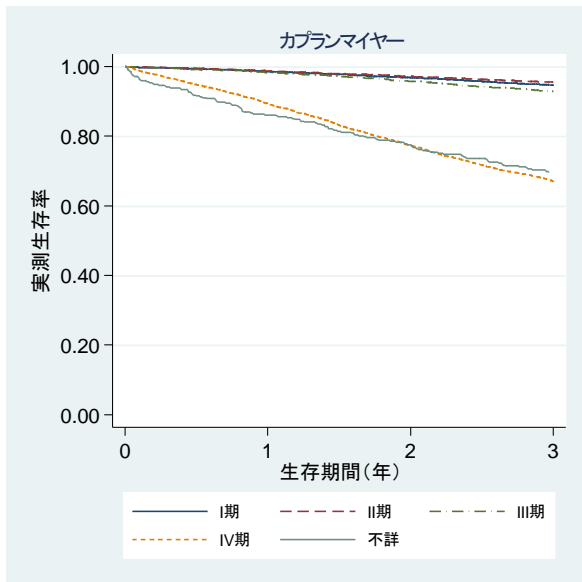
2012 年診断例の 3 年生存率を表 3-11-2 に示す。全体として、3 年実測生存率は、約 90%、相対

生存率が約 99%であった。年代が高くなるほど、実測生存率と相対生存率の差が大きくなり、高齢になるほど前立腺がん以外の要因で死亡している例が多いと考えられた。3 年相対生存率は、どの年代もほぼ 90%以上と高い。UICC TNM 分類総合ステージ別にみると、I 期から III 期では、相対生存率は 100%であった。観血的治療を受けた者の相対生存率は、治癒切除、非治癒切除例に関わらずほぼ 100%であった。

表 3-11-2 属性別 3 年生存率

	全体			
	実測	相対	95%信頼区間	
全体	90.3	99.2	98.8	99.6
年齢				
15-39 歳				
40 歳代	94.8	95.5	87.3	98.7
50 歳代	96.4	98.1	97.0	98.9
60 歳代	95.4	99.4	98.9	99.8
70 歳代	91.3	100.0	99.7	100.0
80 歳以上	72.3	95.5	93.6	97.4
UICC TNM 総合ステージ				
I 期	94.8	100.0	100.0	100.0
II 期	95.6	100.0	100.0	100.0
III 期	92.9	100.0	100.0	100.0
IV 期	67.1	75.7	74.0	77.4
不詳	69.6	85.3	79.4	90.6
観血的治療				
有	97.5	100.0	100.0	100.0
原発巣・治癒切除	97.7	100.0	100.0	100.0
原発巣・非治癒切	97.7	100.0	100.0	100.0
除				
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	92.8	98.7	94.8	100.0
無	87.1	97.4	96.9	98.0

\*癌腫のみ対象



## 12. 膀胱(C67)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	14,550	284	12,040	6,492	6,487	23	6,464

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、6,464 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 2,230 例、打ち切りが 161 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.5%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-12-1 に示す。性別で見ると、男性が約 77%、女性が約 23%であった。診断時の年齢分布をみると、70 歳代が最も多く約 34%、80 歳以上が約 32%、60 歳代が約 24%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が約 55%と半数以上を占めた。観血的治療の実施割合は、約 86%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 23%であった。

表 3-12-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	4,955	100.0	1,509	100.0	6,464	100.0
年齢						
0-14 歳	(1-3)		0	0.0	(1-3)	
15-39 歳	15	0.3	13	0.9	28	0.4
40 歳代	95	1.9	34	2.3	129	2.0
50 歳代	375	7.6	97	6.4	472	7.3
60 歳代	1,275	25.7	271	18.0	1,546	23.9
70 歳代	1,731	34.9	465	30.8	2,196	34.0
80 歳以上	1,462	29.5	629	41.7	2,091	32.3
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	2,819	56.9	710	47.1	3,529	54.6
II 期	928	18.7	333	22.1	1,261	19.5
III 期	475	9.6	182	12.1	657	10.2
IV 期	563	11.4	226	15.0	789	12.2
不詳	143	2.9	48	3.2	191	3.0
空欄	27	0.5	10	0.7	37	0.6
観血的治療						
有	4,352	87.8	1,229	81.4	5,581	86.3
原発巣・治癒切除	3,405	68.7	908	60.2	4,313	66.7
原発巣・非治癒切除	533	10.8	190	12.6	723	11.2
原発巣・治癒/非治癒	414	8.4	131	8.7	545	8.4
の別不詳						
無	603	12.2	280	18.6	883	13.7
発見経緯						
がん検診	26	0.5	(4-6)		31	0.5
健康診断・人間ドック	152	3.1	38	2.5	190	2.9
他疾患経過観察中	1,161	23.4	343	22.7	1,504	23.3
その他・不明	3,616	73.0	1,123	74.4	4,739	73.3

\*癌腫のみ対象、癌腫以外は空欄へ変換

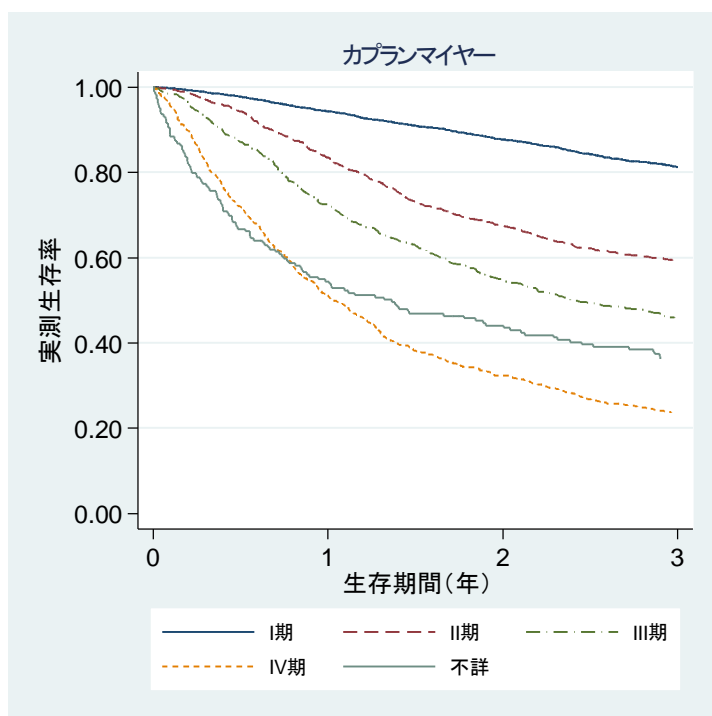
(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-12-2に示す。全体の3年実測生存率は約65%、相対生存率が約73%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては70歳代まで70%以上であるが、80歳以上では約63%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約92%、II期が約68%、III期が約52%、IV期が約26%であった。観血的治療を受けた場合の相対生存率は、約80%で、その中で原発巣・治癒切除例では約85%であった。

表3-12-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	66.5	75.8	74.2	77.3	60.2	65.8	63.0	68.5	65.1	73.4	72.1	74.7
年齢												
15-39歳												
40歳代	93.5	94.1	86.6	97.7	75.9	76.2	57.8	87.5	88.8	89.3	82.3	93.8
50歳代	79.6	81.0	76.4	84.8	67.9	68.4	58.0	76.8	77.2	78.4	74.2	82.0
60歳代	77.3	80.4	77.9	82.7	72.1	73.3	67.4	78.3	76.4	79.2	76.9	81.3
70歳代	69.3	76.6	74.1	79.0	69.7	72.9	68.3	77.1	69.4	75.8	73.7	77.9
80歳以上	48.4	66.6	63.0	70.1	45.5	55.4	50.6	60.1	47.6	63.1	60.2	66.0
UICC TNM 分類総合ステージ*												
I期	81.4	92.6	90.9	94.1	80.9	88.5	85.1	91.4	81.3	91.7	90.2	93.1
II期	59.9	68.8	65.1	72.4	58.0	63.9	57.8	69.6	59.4	67.5	64.3	70.6
III期	46.5	52.7	47.5	57.7	44.7	48.3	40.3	56.0	45.9	51.5	47.1	55.7
IV期	26.2	28.7	24.8	32.8	17.8	19.0	13.9	24.7	23.8	25.9	22.7	29.3
不詳	39.8	49.4	39.3	59.4	26.5	31.5	17.8	47.0	36.4	44.8	36.3	53.3
観血的治療												
有												
原発巣・治癒切除	71.8	81.2	79.7	82.7	69.0	75.0	72.0	77.7	71.2	79.8	78.5	81.2
原発巣・非治癒切除	76.7	86.3	84.7	87.9	75.9	82.1	78.9	85.0	76.6	85.4	84.0	86.8
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	46.4	54.0	48.9	58.9	40.3	44.7	36.8	52.4	44.8	51.5	47.3	55.7
無	63.8	73.3	67.7	78.4	62.5	68.8	59.0	77.2	63.5	72.2	67.4	76.7
無	28.1	34.2	29.8	38.7	21.3	24.4	19.0	30.1	25.9	31.0	27.6	34.6

\*癌腫のみ対象



## 13. 喉頭(C32.0, 32.1, 32.2, 10.1)

	集計対象施設 全登録数	集計対象 施設数	症例区分 2, 3	集計対象 腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	3,695	263	3,194	3,045	3,045	0	3,045

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、3,045 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 683 例、打ち切りが 75 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.5%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-13-1 に示す。性別で見ると、男性が約 93%、女性が約 7%であった。診断時の年齢分布をみると、60 歳代が最も多く約 37%、70 歳以上が約 35%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I 期が約 42%を占めた。観血的治療の実施割合は、約 30%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 14%であった。

表 3-13-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	2,841	100.0	204	100.0	3,045	100.0
年齢						
15-39 歳	(7-9)		(1-3)		12	0.4
40 歳代	34	1.2	(4-6)		40	1.3
50 歳代	301	10.6	20	9.8	321	10.5
60 歳代	1,046	36.8	74	36.3	1,120	36.8
70 歳代	983	34.6	67	32.8	1,050	34.5
80 歳以上	468	16.5	34	16.7	502	16.5
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	1,192	42.0	77	37.7	1,269	41.7
II 期	636	22.4	52	25.5	688	22.6
III 期	409	14.4	22	10.8	431	14.2
IV 期	549	19.3	43	21.1	592	19.4
不詳	36	1.3	(1-3)		38	1.2
空欄	19	0.7	(7-9)		27	0.9
観血的治療						
有	841	29.6	62	30.4	903	29.7
原発巣・治癒切除	709	25.0	51	25.0	760	25.0
原発巣・非治癒切除	68	2.4	(4-6)		74	2.4
原発巣・治癒/非治癒	64	2.3	(4-6)		69	2.3
の別不詳						
無	2,000	70.4	142	69.6	2,142	70.3
発見経緯						
がん検診	17	0.6	(1-3)		19	0.6
健康診断・人間ドック	22	0.8	(1-3)		23	0.8
他疾患経過観察中	397	14.0	30	14.7	427	14.0
その他・不明	2,405	84.7	171	83.8	2,576	84.6

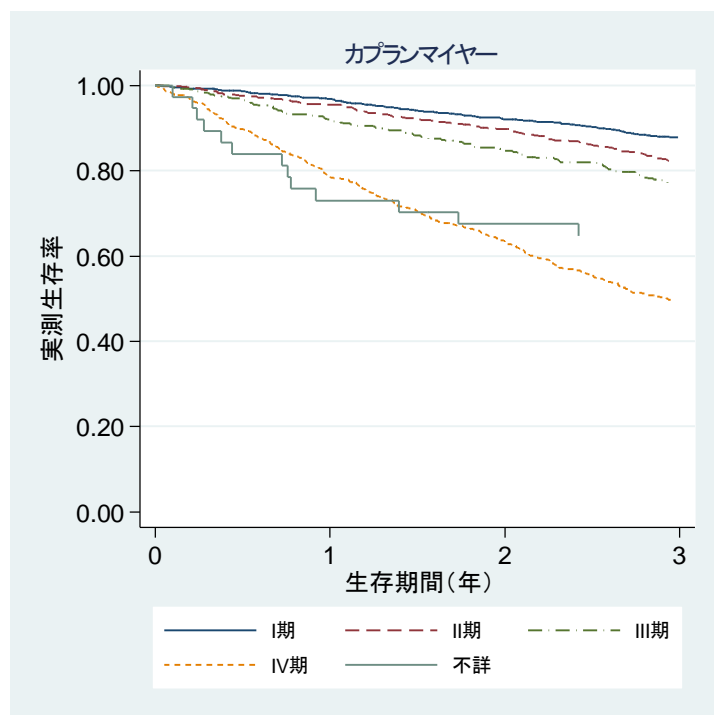
(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-13-2に示す。全体の3年相対生存率は約84%、実測生存率が約77%であった。70歳代以上では、実測生存率と相対生存率の差が大きくなっていた。年代別にみた相対生存率は、全体としては70歳代まで80%以上であるが、80歳以上では約77%であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約96%、II期が約90%、III期が約85%、IV期が約54%であった。観血的治療を実施した場合、相対生存率は、約85%で、その中で原発巣・治癒切除例では約85%であった。

表3-13-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	77.0	84.3	82.5	85.9	81.6	85.6	79.2	90.5	77.3	84.4	82.7	85.9
年齢												
15-39歳												
40歳代	91.0	91.6	75.0	97.7	-	-	-	-	89.8	90.4	75.5	96.7
50歳代	86.4	87.8	83.3	91.3	-	-	-	-	86.3	87.7	83.3	91.1
60歳代	83.1	86.4	83.9	88.7	87.8	89.4	79.3	95.1	83.4	86.6	84.2	88.8
70歳代	76.3	83.8	80.7	86.6	77.3	80.8	68.1	89.5	76.4	83.6	80.6	86.3
80歳以上	57.0	76.1	69.9	81.9	72.0	85.5	63.0	100.0	58.0	76.8	70.8	82.3
UICC TNM分類総合ステージ*												
I期	87.6	96.0	93.8	97.9	92.1	96.2	87.0	100.0	87.9	96.0	93.9	97.8
II期	82.0	90.1	86.6	93.2	84.3	90.5	76.3	98.6	82.2	90.2	86.8	93.1
III期	77.4	85.3	80.4	89.4	-	-	-	-	77.3	84.9	80.2	89.0
IV期	48.8	52.9	48.2	57.4	60.5	62.5	45.8	75.7	49.7	53.6	49.2	57.9
不詳	65.8	70.4	51.0	84.5	-	-	-	-	65.0	69.6	50.8	83.5
観血的治療												
有												
原発巣・治癒切除	78.1	85.5	82.2	88.4	80.1	83.4	70.4	91.8	78.2	85.3	82.2	88.1
原発巣・非治癒切除	78.0	85.6	82.0	88.8	79.7	82.9	68.1	92.1	78.1	85.4	81.7	88.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	76.1	82.9	69.7	92.2	-	-	-	-	76.7	83.2	70.7	92.0
不詳	81.1	86.9	74.1	95.2	-	-	-	-	81.0	86.8	74.5	94.8
無	76.5	83.7	81.6	85.7	82.3	86.5	78.8	92.2	76.9	83.9	81.9	85.8

\*癌腫のみ



## 14. 胆嚢(C23.9)

	集計対象施設全登録数	集計対象施設数	症例区分 2, 3	集計対象腫瘍	年齢 0~99 歳	除外	集計対象
2012	3, 151	285	2, 521	2, 484	2, 484	(1-3)	2, 482

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、2,482 例で、3 年以内に亡くなっていた者が 1,703 例、打ち切りが 67 例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.3%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表 3-14-1 に示す。性別で見ると、男性が約 45%、女性が約 55%であった。診断時の年齢分布をみると、70 歳代が最も多く約 37%、80 歳以上が約 31%であった。UICC TNM 分類総合ステージの分布をみると、I V 期が約 48%を占めた。観血的治療の実施割合は、約 45%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約 37%であった。

表 3-14-1 対象者の属性

	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	1, 125	100.0	1, 357	100.0	2, 482	100.0
年齢						
15-39 歳	(4-6)		(4-6)		(7-9)	
40 歳代	23	2.0	25	1.8	48	1.9
50 歳代	96	8.5	88	6.5	184	7.4
60 歳代	274	24.4	300	22.1	574	23.1
70 歳代	423	37.6	487	35.9	910	36.7
80 歳以上	305	27.1	452	33.3	757	30.5
UICC TNM 分類総合ステージ						
I 期	176	15.6	182	13.4	358	14.4
II 期	196	17.4	188	13.9	384	15.5
III 期	185	16.4	263	19.4	448	18.0
IV 期	523	46.5	664	48.9	1, 187	47.8
不詳	39	3.5	47	3.5	86	3.5
空欄	(4-6)		13	1.0	19	0.8
観血的治療						
有	542	48.2	574	42.3	1, 116	45.0
原発巣・治癒切除	458	40.7	480	35.4	938	37.8
原発巣・非治癒切除	68	6.0	79	5.8	147	5.9
原発巣・治癒/非治癒	16	1.4	15	1.1	31	1.2
の別不詳						
無	583	51.8	783	57.7	1, 366	55.0
発見経緯						
がん検診	(4-6)		(7-9)		15	0.6
健康診断・人間ドック	64	5.7	48	3.5	112	4.5
他疾患経過観察中	434	38.6	484	35.7	918	37.0
その他・不明	621	55.2	816	60.1	1, 437	57.9

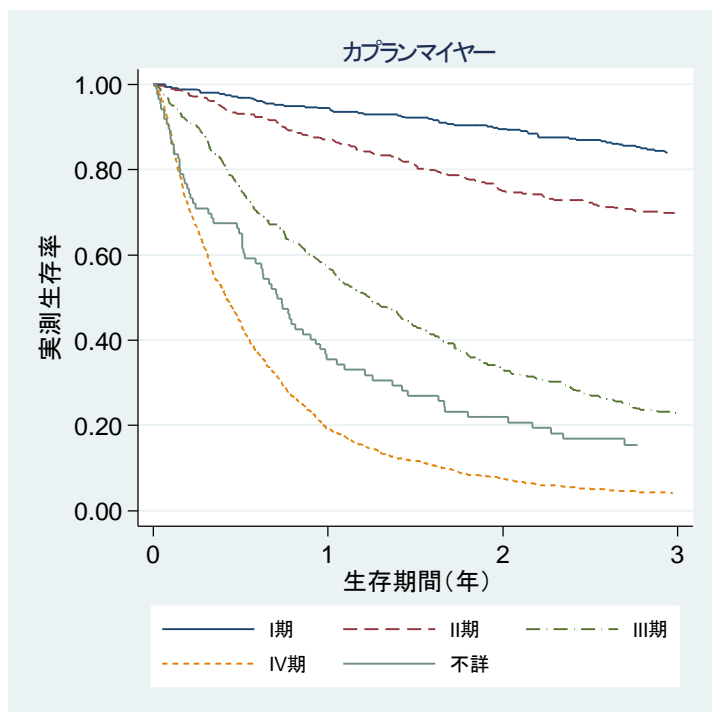


(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-14-2に示す。全体の3年実測生存率は約30%、相対生存率が約33%であった。年代別にみた相対生存率は、40歳代を除き30%台であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約91%、II期が約77%、III期が約25%、IV期が約5%であった。観血的治療を受けた場合の相対生存率は、約69%で、その中で原発巣・治癒切除例では約77%であった。

表3-14-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	31.5	35.5	32.4	38.6	29.4	31.7	29.1	34.4	30.4	33.4	31.4	35.4
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	48.5	48.8	33.8	62.2
50歳代	42.2	42.9	32.8	52.7	36.4	36.6	26.7	46.7	39.4	39.9	32.7	47.0
60歳代	31.8	33.1	27.3	38.9	33.1	33.6	28.2	39.1	32.5	33.4	29.4	37.4
70歳代	31.0	34.3	29.5	39.2	31.2	32.7	28.4	37.0	31.1	33.4	30.2	36.7
80歳以上	27.2	36.3	29.7	43.2	22.2	26.7	22.2	31.6	24.3	30.5	26.7	34.5
UICC TNM分類総合ステージ												
I期	85.1	94.2	87.3	99.2	82.5	88.2	81.3	93.4	83.8	91.1	86.4	94.9
II期	68.8	78.8	70.8	85.7	70.8	76.0	68.4	82.5	69.7	77.4	72.0	82.2
III期	23.0	25.9	19.3	33.1	23.0	24.9	19.5	30.7	23.0	25.3	21.1	29.8
IV期	3.1	3.4	2.0	5.5	5.1	5.4	3.8	7.5	4.2	4.6	3.4	6.0
不詳	11.4	13.9	4.2	30.4	18.4	21.3	10.2	35.5	15.2	17.9	9.8	28.3
観血的治療												
有	61.4	68.9	64.1	73.3	64.7	68.9	64.5	73.0	63.1	68.9	65.7	71.9
原発巣・治癒切除	69.6	78.2	73.2	82.7	72.1	76.7	72.1	80.8	70.89	77.4	74.07	80.48
原発巣・非治癒切除	7.6	8.5	3.0	17.8	28.6	30.9	20.5	42.1	19.2	21.0	14.4	28.5
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	28.7	31.3	15.0	49.7
無	3.2	3.6	2.2	5.6	3.1	3.5	2.3	5.1	3.1	3.5	2.6	4.7



## 15. 腎(C64.9)

	集計対象施設全登録数	集計対象施設数	症例区分 2, 3	集計対象腫瘍	年齢0~99歳	除外	集計対象
2012	8,501	284	7,122	7,121	7,121	0	7,121

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、7,121例で、3年以内に亡くなっていた者が1,354例、打ち切りが195例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.3%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-15-1に示す。性別で見ると、男性が約71%、女性が約29%であった。診断時の年齢分布を見ると、60歳代が最も多く約32%、70歳以上が約29%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布を見ると、I期が約67%を占めた。観血的治療の実施割合は、約84%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約50%であった。

表3-15-1 対象者の属性

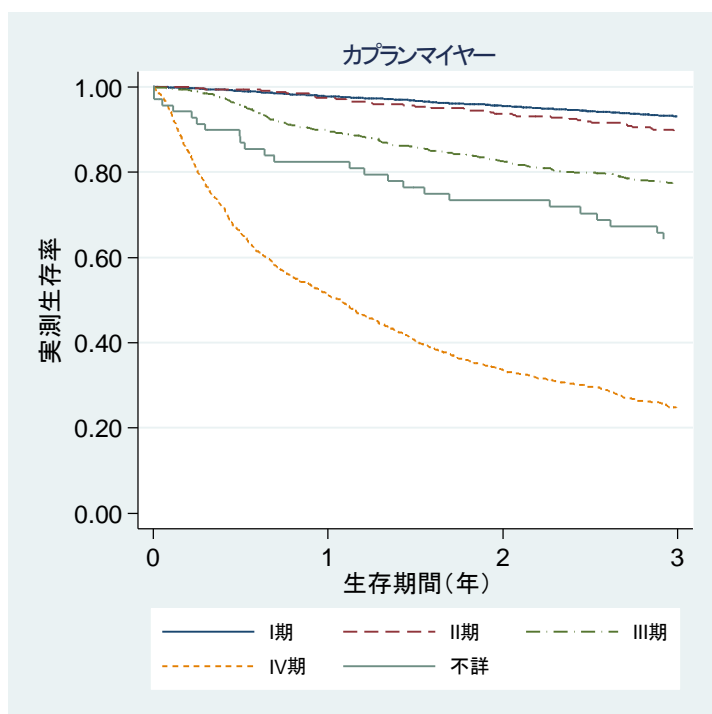
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	5,028	100.0	2,093	100.0	7,121	100.0
年齢						
0-14歳	13	0.3	14	0.7	27	0.4
15-39歳	143	2.8	57	2.7	200	2.8
40歳代	434	8.6	128	6.1	562	7.9
50歳代	894	17.8	300	14.3	1,194	16.8
60歳代	1,650	32.8	616	29.4	2,266	31.8
70歳代	1,399	27.8	631	30.1	2,030	28.5
80歳以上	495	9.8	347	16.6	842	11.8
UICC TNM分類総合ステージ						
I期	3,354	66.7	1,394	66.6	4,748	66.7
II期	214	4.3	112	5.4	326	4.6
III期	593	11.8	242	11.6	835	11.7
IV期	757	15.1	283	13.5	1,040	14.6
不詳	45	0.9	25	1.2	70	1.0
空欄	65	1.3	37	1.8	102	1.4
観血的治療						
有	4,201	83.6	1,752	83.7	5,953	83.6
原発巣・治癒切除	3,941	78.4	1,654	79.0	5,595	78.6
原発巣・非治癒切除	157	3.1	55	2.6	212	3.0
原発巣・治癒/非治癒	103	2.0	43	2.1	146	2.1
の別不詳						
無	827	16.4	341	16.3	1,168	16.4
発見経緯						
がん検診	86	1.7	32	1.5	118	1.7
健康診断・人間ドック	796	15.8	241	11.5	1,037	14.6
他疾患経過観察中	2,495	49.6	1,080	51.6	3,575	50.2
その他・不明	1,651	32.8	740	35.4	2,391	33.6

(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-15-2に示す。全体の3年実測生存率は約81%、相対生存率が約86%であった。年代別にみた相対生存率は、80歳以上を除き80%以上であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約99%、II期が約94%、III期が約83%、IV期が約27%であった。観血的治療を受けた場合の相対生存率は、約94%で、その中で原発巣・治癒切除例では約96%であった。

表3-15-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	80.3	85.7	84.5	86.9	81.9	85.4	83.6	87.0	80.7	85.6	84.6	86.6
年齢												
15-39歳	92.3	92.5	86.7	95.9	90.5	90.6	78.7	96.1	91.8	82.1	87.2	95.1
40歳代	91.3	91.9	88.7	94.2	87.3	87.6	80.4	92.3	90.4	90.9	88.1	93.1
50歳代	87.0	88.4	85.9	90.5	91.6	92.3	88.5	94.9	88.2	89.4	87.3	91.1
60歳代	82.8	86.0	84.0	87.8	83.8	85.1	81.9	87.9	83.1	85.8	84.1	87.3
70歳代	75.2	82.9	80.3	85.3	82.5	86.3	82.9	89.2	77.5	84.0	81.9	85.9
80歳以上	60.1	79.3	73.3	84.8	64.5	75.1	68.8	80.7	61.9	77.5	73.2	81.5
UICC TNM分類総合ステージ												
I期	92.6	98.6	97.5	99.5	94.6	98.3	96.9	99.4	93.2	98.5	97.7	99.2
II期	89.5	94.9	89.6	98.5	89.9	93.2	85.6	97.7	89.7	94.3	90.2	97.3
III期	78.2	84.7	80.8	88.0	75.1	78.9	72.6	84.1	77.4	83.0	79.8	85.9
IV期	25.8	27.8	24.4	31.2	21.9	23.3	18.2	28.7	24.8	26.6	23.7	29.5
不詳	67.4	73.1	55.5	86.0	-	-	-	-	64.2	70.6	56.6	81.8
観血的治療												
有	89.3	94.5	93.5	95.5	90.7	93.9	92.4	95.2	89.7	94.4	93.5	95.1
原発巣・治癒切除	91.2	96.6	95.6	97.5	92.2	95.5	94.0	96.7	91.5	96.2	95.4	97.0
原発巣・非治癒切除	51.7	54.9	46.2	62.9	45.4	47.2	33.0	60.5	50.1	52.9	45.5	59.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	72.5	77.1	66.7	85.2	88.4	92.0	77.4	98.9	77.2	81.6	73.4	88.0
無	33.7	38.7	35.0	42.5	35.5	39.0	33.4	44.8	34.2	38.8	35.7	40.9



## 16. 腎盂尿管(C65.9, 66.9)

	集計対象施設全登録数	集計対象施設数	症例区分 2, 3	集計対象腫瘍	年齢0~99歳	除外	集計対象
2012	4, 113	280	3, 358	2, 728	2, 728	(4-6)	2, 724

## (1) 生存状況把握割合

集計対象は、2,724例で、3年以内に亡くなっていた者が1,386例、打ち切りが63例であった。集計対象全体で生存状況把握割合は、97.7%であった。

## (2) 対象者の属性

集計対象の属性を表3-16-1に示す。性別で見ると、男性が約67%、女性が約33%であった。診断時の年齢分布を見ると、70歳代が最も多く約41%、80歳以上が約28%であった。UICC TNM分類総合ステージの分布を見ると、IV期が約33%を占めた。観血的治療の実施割合は、約69%であった。発見経緯を見ると、他疾患経過観察中が約34%であった。

表3-16-1 対象者の属性

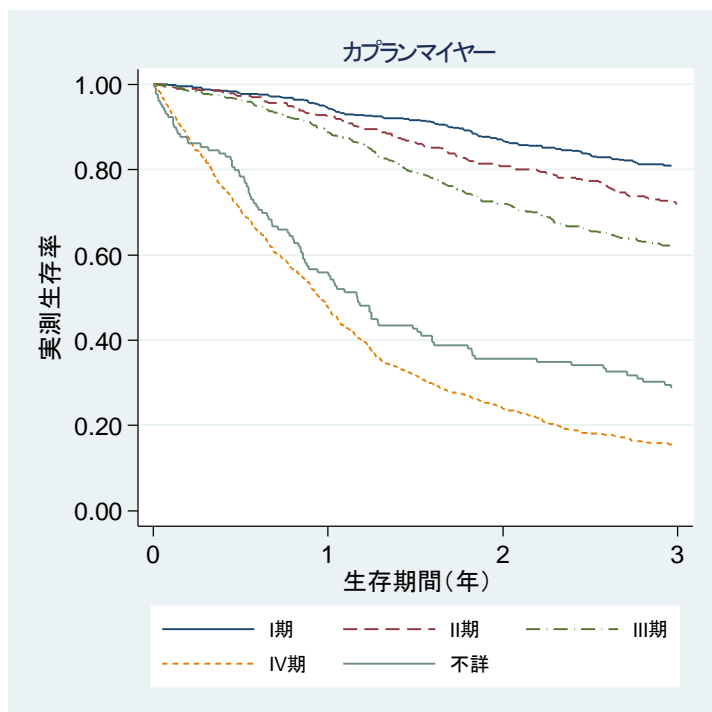
	男性		女性		全体	
	対象数	(%)	対象数	(%)	対象数	(%)
全体	1, 831	100.0	893	100.0	2, 724	100.0
年齢						
15-39歳	(7-9)		(1-3)		12	0.4
40歳代	30	1.6	(7-9)		39	1.4
50歳代	122	6.7	46	5.2	168	6.2
60歳代	469	25.6	168	18.8	637	23.4
70歳代	755	41.2	348	39.0	1, 103	40.5
80歳以上	446	24.4	319	35.7	765	28.1
UICC TNM分類総合ステージ						
I期	375	20.5	164	18.4	539	19.8
II期	258	14.1	114	12.8	372	13.7
III期	514	28.1	247	27.7	761	27.9
IV期	581	31.7	324	36.3	905	33.2
不詳	90	4.9	40	4.5	130	4.8
空欄	13	0.7	(4-6)		17	0.6
観血的治療						
有	1, 280	69.9	598	67.0	1, 878	68.9
原発巣・治癒切除	1, 120	61.2	503	56.3	1, 623	59.6
原発巣・非治癒切除	113	6.2	60	6.7	173	6.4
原発巣・治癒/非治癒	47	2.6	35	3.9	82	3.0
の別不詳						
無	551	30.1	295	33.0	846	31.1
発見経緯						
がん検診	(7-9)		(1-3)		10	0.4
健康診断・人間ドック	40	2.2	21	2.4	61	2.2
他疾患経過観察中	665	36.3	251	28.1	916	33.6
その他・不明	1, 119	61.1	618	69.2	1, 737	63.8

(3) 3年生存率

2012年診断例の3年生存率を表3-16-2に示す。全体の3年実測生存率は約50%、相対生存率が約56%であった。年代別にみた相対生存率は、50歳代では60%台、60、70歳代は50%台であった。UICC TNM分類総合ステージ別に相対生存率をみると、全体でI期が約90%、II期が約80%、III期が約68%、IV期が約17%であった。観血的治療実施者の相対生存率は、約74%で、その中で原発巣・治癒切除例では約79%であった。

表3-16-2 属性別3年生存率

	男性				女性				全体			
	実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間		実測	相対	95%信頼区間	
全体	51.2	57.4	54.8	60.0	48.2	51.9	48.3	55.4	50.2	55.6	53.5	57.7
年齢												
15-39歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	81.3	71.8	61.0	92.4	-	-	-	-	77.5	78.0	60.4	88.6
50歳代	67.2	68.3	59.1	76.0	65.1	65.6	49.9	77.6	66.6	67.6	59.8	74.3
60歳代	55.8	58.0	53.2	62.6	60.4	61.4	53.4	68.5	57.0	58.9	54.8	62.8
70歳代	51.2	56.5	52.4	60.4	52.2	54.8	49.0	60.2	51.5	55.9	52.6	59.1
80歳以上	39.5	52.9	46.7	58.9	33.9	40.0	33.8	46.3	37.2	47.3	42.9	51.7
UICC TNM 分類総合ステージ												
I期	79.6	90.0	84.9	94.3	83.5	90.3	83.0	95.7	80.8	90.1	86.0	93.6
II期	71.1	79.7	73.0	85.5	73.7	79.2	69.4	86.8	71.9	79.6	74.2	74.3
III期	63.8	71.0	66.2	75.5	58.5	62.6	55.7	68.9	62.1	68.3	64.3	72.0
IV期	15.5	17.2	14.0	20.6	15.7	16.7	12.7	21.3	15.6	17.0	14.5	19.7
不詳	30.0	37.2	25.9	49.1	25.9	30.6	16.0	47.5	28.8	35.2	26.0	44.9
観血的治療												
有	67.2	74.6	71.7	77.4	67.6	72.0	67.7	75.8	67.3	73.8	71.4	76.1
原発巣・治癒切除	71.4	79.2	76.1	82.0	72.3	76.9	72.5	80.9	71.7	78.5	76.0	80.8
原発巣・非治癒切除	29.9	33.7	24.4	43.4	29.9	32.2	19.9	45.3	29.8	33.1	25.6	40.9
原発巣・治癒/非治癒の別不詳	56.7	63.0	45.8	77.2	61.9	65.1	45.8	79.7	58.9	64.0	51.4	74.7
無	13.7	16.2	12.9	19.8	8.2	9.3	6.1	13.4	11.9	13.8	11.3	16.5



## 17. 特別集計:局在コード

院内がん登録は、2007年診断例から全国のがん診療連携拠点病院等からデータ収集を開始し、がん診療連携拠点病院等における平均的ながん患者の生存率についての情報を提供するため、2015年に院内がん登録では初めてとなる2007年診断例について院内がん登録生存率集計（5年）を公表した。その後、2017年8月には、院内がん登録2008年5年生存率報告書を公表した。がん診療連携拠点病院等から収集された院内がん登録情報は、患者の生存確認情報を含め、がん診療を把握する貴重な情報源であり、こうしたデータを研究に利用したいという要望も少なくはない。

そこで、本集計では特別集計として、2011年と2012年診断例の3年予後情報付データ提出施設で、かつ生存率集計対象施設のデータにおいて、症例区分2、3の自施設初回治療開始例における局在コードについて集計を行なった。

なお、院内がん情報の標準化、精度向上のために国立がん研究センターでは、これまで院内がん登録実務者の認定、及び研修を行ってきた。その中で、2012年診断例からのUICC TNM分類第7版の適応に伴い、より徹底したルールの遵守やルールの明確化に努めるとともに院内がん登録実務者への情報の周知に努めてきた。2011年診断例についてはUICC TNM分類第6版が適応されていた時期であり、十分に登録ルールが周知されていたなかったと推測される部分もある。特に、現在では研修等で広く周知している「.8」境界部位コードや食道、膵臓における原則として使用しないとされるコードの登録状況については注意してご覧いただきたい。

### ・境界部位コードの取り扱い

我が国のがん登録では、国際疾病分類腫瘍学第3版（ICD-03）に記載されている、「複数の局在分類又は細分類にまたがっている腫瘍について：腫瘍が2つ又はそれ以上の局在分類又は局在細分類にまたがって存在しており、さらに腫瘍がどちらから発生したかを特定できない場合、局在細分類「.8」を用いてコードする。」とされるルールCは、原則として適用せず、「.8」コードはできる限り用いないこととしている。理由は、例えば、食道の境界部病巣「C15.8」を用いると、コード上は頸部/胸部の境界部、胸部/腹部の境界部のいずれにあたるのかが区別がつかなくなり、本来、必要な情報が得られなくなるためである。従って、境界部の病巣であっても、可能な限り、診療情報を確認し、主座（原発したと想定される部位）にコード化することが望ましいとして研修を行ってきた。

### ・特殊な局在コード

特殊な局在コードとして、食道、膵臓の区分がある。これらの局在コードの登録に関しては、主に院内がん登録実務中級者の研修において教育を行ってきた。まず食道の細分類では、二つの違う分類方式が広く使用されており、ICD-03およびICD10にはその両者が存在する。頸部、胸部、腹部という用語はレントゲン所見上や手術中での記述であり、上部、中部、下部3分の1という用語は内視鏡や臨床上での記述である。これに対し、我が国では、いずれの分類を使用するか明確な定めがなかった。そのため、院内がん登録においては原則として、食道をC15.0-C15.2の頸部・胸部・腹部食道の3区分でコードするよう指導してきた。但し、コメント等の記載が可能であれば、胸部上部（Ut）、胸部中部（Mt）、胸部下部（Lt）等の食道癌取り扱い規約の表現も併記することが望ましい。さらに、膵臓の局在コードの登録においては、同様の理由から、C25.3膵管、C25.4ランゲルハンス島、C25.7その他の明示された部位のコードは原則として用いないこととなっている。

表 局在コード別登録数（2011年3年予後情報付～2012年3年予後情報付）

施設数	2011年3年予後	2012年3年予後
	268	286
C000	外側上唇	10 (4-6)
C001	外側下唇	41 49
C002	外側口唇	(1-3) 0
C003	上唇粘膜	12 13
C004	下唇粘膜	18 22
C005	口唇粘膜、NOS	0 (1-3)
C006	唇交連	(1-3) (1-3)
C008	口唇の境界部病巣	(1-3) (1-3)
C009	口唇、NOS	(7-9) (7-9)
C019	舌根部	302 393
C020	舌背面、NOS	48 41
C021	舌縁	1,822 1,977
C022	舌下面、NOS	126 163
C023	舌の前3分の2、NOS	15 12
C024	舌扁桃	(1-3) (4-6)
C028	舌の境界部病巣	11 14
C029	舌、NOS	172 159
C030	上顎歯肉	449 468
C031	下顎歯肉	711 741
C039	歯肉、NOS	16 13
C040	前部口腔底	89 91
C041	側部口腔底	104 106
C048	口腔底の境界部病巣	10 (4-6)
C049	口腔底、NOS	205 225
C050	硬口蓋	102 124
C051	軟口蓋 NOS	141 201
C052	口蓋垂	31 40
C058	口蓋の境界部病巣	(1-3) (7-9)
C059	口蓋、NOS	31 28
C060	頬粘膜	397 472
C061	口腔前庭他	(1-3) (1-3)
C062	臼後部他	31 54
C068	その他及び部位不明の口腔の境界部病巣	0 (1-3)
C069	口腔、NOS	20 (7-9)
C079	耳下腺、NOS	524 635
C080	顎下腺	240 225
C081	舌下腺	33 31
C088	大唾液腺の境界部病巣	0 0
C089	大唾液腺、NOS	11 (4-6)
C090	扁桃	39 37
C091	扁桃口蓋弓	76 70
C098	扁桃の境界部病巣	(7-9) (4-6)
C099	扁桃、NOS	548 672
C100	喉頭蓋谷	66 87
C101	喉頭蓋の前面	16 18
C102	中咽頭側壁	504 511
C103	中咽頭後壁	129 124
C104	Branchial cleft	(1-3) (4-6)
C108	中咽頭の境界部病巣	24 21
C109	中咽頭、NOS	196 188
C110	鼻咽頭上壁	33 29
C111	鼻咽頭後壁	128 134

施設数		2011年3年予後	2012年3年予後
		268	286
C112	鼻咽頭側壁	145	170
C113	鼻咽頭前壁	(4-6)	10
C118	鼻咽頭の境界部病巣	(7-9)	(4-6)
C119	鼻咽頭、NOS	158	175
C129	梨状	1,289	1,516
C130	後輪状軟骨部	163	177
C131	披裂喉頭蓋ひだの下咽頭面	84	91
C132	下咽頭後壁	316	381
C138	下咽頭の境界部病巣	27	24
C139	下咽頭、NOS	281	263
C140	咽頭、NOS	20	29
C142	ワルダイヤー輪	12	(4-6)
C148	口唇、口腔及び咽頭の境界部病巣	(1-3)	(1-3)
C150	頸部食道	538	583
C151	胸部食道	7,523	8,857
C152	腹部食道	404	633
C153	上部食道	131	84
C154	中部食道	644	484
C155	下部食道	496	348
C158	食道の境界部病巣	45	23
C159	食道、NOS	99	90
C160	噴門、NOS	3,946	4,258
C161	胃底部	1,300	1,496
C162	胃体部	21,726	25,461
C163	胃前庭部	13,871	15,267
C164	幽門	883	976
C165	胃小彎、NOS	731	675
C166	胃大彎、NOS	68	79
C168	胃の境界部病巣	348	305
C169	胃、NOS	1,505	1,488
C170	十二指腸	900	1,158
C171	空腸	159	234
C172	回腸	199	290
C173	メッケル憩室	(1-3)	(4-6)
C178	小腸の境界部病巣	(4-6)	(7-9)
C179	小腸、NOS	147	159
C180	盲腸	2,586	2,901
C181	虫垂	283	327
C182	上行結腸	5,957	6,583
C183	右結腸曲	211	242
C184	横行結腸	3,365	3,793
C185	左結腸曲	111	146
C186	下行結腸	1,797	1,956
C187	S状結腸	9,088	10,368
C188	結腸の境界部病巣	20	(7-9)
C189	結腸、NOS	82	66
C199	直腸S状結腸移行部	3,527	4,135
C209	直腸、NOS	9,723	10,667
C210	肛門、NOS	24	17
C211	肛門管	309	297
C212	総排泄腔由来部	0	0
C218	直腸、肛門及び肛門管の境界部病巣	14	(4-6)
C220	肝、NOS	11,736	12,456



施設数		2011年3年予後	2012年3年予後
		268	286
C221	肝内胆管	1,713	1,772
C239	胆のう	2,277	2,482
C240	肝外胆管	3,552	3,672
C241	ファーター乳頭膨大部	702	829
C248	胆道の境界部病巣	(1-3)	(4-6)
C249	胆道、NOS	11	(7-9)
C250	膵頭部	5,267	5,984
C251	膵体部	2,747	3,190
C252	膵尾部	1,596	1,793
C253	膵管	48	45
C254	ランゲルハンス島	19	23
C257	膵のその他の明示された部位	(4-6)	(4-6)
C258	膵の境界部病巣	139	133
C259	膵、NOS	215	223
C260	腸管、NOS	(4-6)	(4-6)
C268	消化器系の境界部病巣	(1-3)	(7-9)
C269	胃腸管、NOS	21	12
C300	鼻腔	360	480
C301	中耳	19	20
C310	副鼻腔	528	485
C311	篩骨洞	84	109
C312	前頭洞	11	(7-9)
C313	蝶形骨洞	18	25
C318	副鼻腔の境界部病巣	(1-3)	(4-6)
C319	副鼻腔、NOS	49	32
C320	声門	1,819	2,113
C321	声門上部	705	797
C322	声門下部	102	117
C323	喉頭軟骨	(1-3)	(1-3)
C328	喉頭の境界部病巣	13	(7-9)
C329	喉頭、NOS	108	80
C339	気管	44	59
C340	主気管支	1,457	1,578
C341	上葉、肺	19,744	21,722
C342	中葉、肺	2,129	2,256
C343	下葉、肺	14,934	16,301
C348	肺の境界部病巣	88	81
C349	肺、NOS	964	854
C379	胸腺	512	527
C380	心臓	46	52
C381	前縦隔	204	258
C382	後縦隔	21	35
C383	縦隔、NOS	123	140
C384	胸膜、NOS	528	522
C388	心臓、縦隔及び胸膜の境界部病巣	(4-6)	(1-3)
C390	上気道、NOS	0	0
C398	呼吸器系及び胸腔内臓器の境界部病巣	0	(1-3)
C399	部位不明確の呼吸器系	(1-3)	(1-3)
C400	上肢の長骨、骨格骨及びその間接	56	46
C401	上肢の短骨及びその間接	(1-3)	(7-9)
C402	下肢の長骨及びその間接	164	184
C403	下肢の短骨	15	(7-9)
C408	四肢の骨、関節及び関節軟骨の境界部病巣	(1-3)	0

施設数		2011年3年予後	2012年3年予後
		268	286
C409	四肢の骨、NOS	(1-3)	(1-3)
C410	頭蓋骨、顔面骨及びその関節	33	40
C411	下顎	36	27
C412	脊柱	60	86
C413	肋骨、胸骨、鎖骨及びその関節	46	64
C414	骨盤骨、仙骨、尾骨及びその関節	77	111
C418	骨、関節及び関節軟骨の境界部病巣	(4-6)	(1-3)
C419	骨、NOS	33	25
C420	血液	157	141
C421	骨髄	10,184	11,492
C422	脾	138	129
C423	細網内皮系、NOS	0	(1-3)
C424	造血系、NOS	10	(1-3)
C440	口唇の皮膚、NOS	156	168
C441	眼	618	773
C442	外耳	453	509
C443	その他及び部位不明の顔面の皮膚	3,184	3,785
C444	頭皮及び頸の皮膚	591	681
C445	体幹の皮膚	981	1,237
C446	上肢及び肩の皮膚	618	717
C447	下肢及び股関節部の皮膚	979	1,178
C448	皮膚の境界部病巣	36	32
C449	皮膚の NOS	125	150
C470	頭部、顔面及び頸部の末梢神経及び自律神経系	(7-9)	11
C471	上肢及び肩の末梢神経及び自律神経系	(4-6)	(4-6)
C472	下肢及び股関節部の末梢神経及び自律神経系	14	(7-9)
C473	胸郭の末梢神経及び自律神経系	(7-9)	(4-6)
C474	腹部の末梢神経及び自律神経系	(1-3)	(1-3)
C475	骨盤の末梢神経及び自律神経系	(1-3)	(1-3)
C476	体幹の末梢神経及び自律神経系、NOS	(1-3)	(1-3)
C478	末梢神経及び自律神経系の境界部病巣	(1-3)	0
C479	自律神経系、NOS	(1-3)	(4-6)
C480	後腹膜	370	446
C481	腹膜の明示された部位	116	144
C482	腹膜、NOS	281	311
C488	後腹膜及び腹膜の境界部病巣	(1-3)	10
C490	頭部、顔面及び頸部の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	122	144
C491	上肢及び肩の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	156	207
C492	下肢及び股関節部の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	586	735
C493	胸郭の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	107	133
C494	腹部の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	77	81
C495	骨盤の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	145	158
C496	体幹の結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織、NOS	76	96
C498	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織の境界部病巣	(1-3)	(4-6)
C499	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織、NOS	67	84
C500	乳頭	97	125
C501	乳房中央部	1,672	1,908
C502	乳房上内側4分の1	6,022	6,689
C503	乳房下内側4分の1	1,949	2,333
C504	乳房上外側4分の1	11,889	13,616
C505	乳房下外側4分の1	2,919	3,239

施設数		2011年3年予後	2012年3年予後
		268	286
C506	乳腺腋窩尾部	81	62
C508	乳房の境界部病巣	1,593	1,441
C509	乳房、NOS	515	521
C510	大陰唇	89	107
C511	小陰唇	33	52
C512	陰核	12	(7-9)
C518	外陰の境界部病巣	15	(7-9)
C519	外陰、NOS	211	220
C529	膣、NOS	153	171
C530	子宮頸部内膜	612	547
C531	子宮頸部外部	799	676
C538	子宮頸の境界部病巣	159	170
C539	子宮頸	3,822	4,589
C540	子宮峡部	24	33
C541	子宮内膜	4,215	5,066
C542	子宮筋層	214	209
C543	子宮底	114	140
C548	子宮体部の境界部病巣	15	18
C549	子宮体部	1,734	1,536
C559	子宮、NOS	27	26
C569	卵巣	4,071	4,389
C570	卵管	171	200
C571	子宮広間膜	0	(1-3)
C573	子宮傍組織	(1-3)	0
C574	子宮付属器	(1-3)	(1-3)
C577	その他の明示された女性生殖器	0	0
C578	女性生殖器の境界部病巣	0	(1-3)
C579	女性生殖系 NOS	(4-6)	(4-6)
C589	胎盤	26	31
C600	包皮	13	24
C601	亀頭	69	85
C602	陰茎体部	20	24
C608	陰茎の境界部病巣	(7-9)	(4-6)
C609	陰茎、NOS	82	83
C619	前立腺	25,787	26,842
C620	停留精巣	18	22
C621	下降精巣	406	462
C629	精巣、NOS	421	431
C630	精巣上体	(1-3)	(1-3)
C631	精索	(7-9)	18
C632	陰のう、NOS	169	191
C637	その他の明示された男性生殖器	(1-3)	0
C638	男性生殖器の境界部病巣	(4-6)	(1-3)
C639	男性生殖器、NOS	(1-3)	(1-3)
C649	腎、NOS	6,286	7,121
C659	腎盂	1,296	1,376
C669	尿管	1,230	1,348
C670	膀胱三角	374	351
C671	膀胱円蓋	193	240
C672	膀胱側壁	2,145	2,297
C673	膀胱前壁	271	307
C674	膀胱後壁	886	1,025
C675	膀胱頸部	392	437

		2011年3年予後	2012年3年予後
施設数		268	286
C676	尿管口	572	583
C677	尿膜間	52	49
C678	膀胱の境界部病巣	298	256
C679	膀胱、NOS	943	943
C680	尿道	55	68
C681	尿道傍腺	0	0
C688	泌尿器の境界部病巣	(1-3)	0
C689	尿路系、NOS	16	26
C690	結膜	110	109
C691	角膜、NOS	(1-3)	0
C692	網膜	38	35
C693	脈絡膜	25	46
C694	毛様体	14	16
C695	涙腺	30	29
C696	眼窩、NOS	133	141
C698	眼及び付属器の境界部病巣	(1-3)	(1-3)
C699	眼、NOS	12	17
C700	脳髄膜	2,033	2,297
C701	脊髄膜	(1-3)	(1-3)
C709	髄膜、NOS	150	139
C710	大脳	412	441
C711	前頭葉	837	948
C712	側頭葉	489	583
C713	頭頂葉	269	318
C714	後頭葉	100	140
C715	脳室、NOS	171	189
C716	小脳、NOS	494	567
C717	脳幹	215	250
C718	脳の境界部病巣	47	44
C719	脳、NOS	310	374
C720	脊髄	61	76
C721	馬尾	(1-3)	(4-6)
C722	嗅神経	(4-6)	(1-3)
C723	視神経	17	21
C724	聴神経	541	720
C725	脳神経、NOS	90	110
C728	脳及び中枢神経系の境界部病巣	(7-9)	(7-9)
C729	神経系、NOS	52	86
C739	甲状腺	5,497	6,159
C740	副腎皮質	18	62
C741	副腎髄質	20	30
C749	副腎、NOS	89	96
C750	上皮小体	12	10
C751	下垂体	1,662	1,778
C752	頭蓋咽頭管	69	94
C753	松果体	65	98
C754	頸動脈小体	0	0
C755	大動脈小体及びその他のパラガングリア	0	(1-3)
C759	内分泌腺、NOS	0	0
C760	頭部、顔面又は頸部、NOS	25	16
C761	胸郭、NOS	21	22
C762	腹部、NOS	36	21
C763	骨盤、NOS	11	21

		2011年3年予後	2012年3年予後
施設数		268	286
C764	上肢、NOS	(1-3)	0
C765	下肢、NOS	(1-3)	(4-6)
C767	その他の不明確な部位	(1-3)	(1-3)
C768	部位不明確の境界部病巣	(1-3)	(1-3)
C770	頭部、顔面及び頸部のリンパ節	1,497	1,457
C771	胸腔内リンパ節	144	152
C772	腹腔内リンパ節	729	752
C773	腋窩又は腕のリンパ節	207	208
C774	下肢又はそけい部のリンパ節	386	405
C775	骨盤リンパ節	36	48
C778	多部位のリンパ節	2,363	2,856
C779	リンパ節、NOS	1,135	1,191
C809	原発部位不明	2,024	2,334



## 付表一覽

### 1.集計対象施設一覽

## 付表1 集計対象施設について



都道府県	施設名称
北海道	北海道がんセンター JA北海道厚生連旭川厚生病院 王子総合病院 市立釧路総合病院 JA北海道厚生連帯広厚生病院 北見赤十字病院 日鋼記念病院 函館厚生院 函館五稜郭病院 手稲溪仁会病院 独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院
青森	青森県立中央病院 八戸市立市民病院 三沢市立三沢病院
岩手	岩手県立中央病院 岩手県立二戸病院 岩手医科大学附属病院 岩手県立胆沢病院 岩手県立釜石病院
宮城	東北大学病院 宮城県立がんセンター 石巻赤十字病院 大崎市民病院
秋田	秋田大学医学部附属病院 秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院 大曲厚生医療センター 秋田赤十字病院 大館市立総合病院 秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田厚生医療センター
山形	山形大学医学部附属病院 山形市立病院済生館 置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院
福島	福島県立医科大学附属病院 一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院 竹田総合病院 一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院 会津中央病院
茨城	茨城県立中央病院 茨城県厚生農業協同組合連合会 総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター 友愛記念病院 茨城県厚生農業協同組合連合会 茨城西南医療センター病院 筑波大学附属病院 国立病院機構水戸医療センター 株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院
栃木	地方独立行政法人栃木県立がんセンター 自治医科大学附属病院 栃木県済生会宇都宮病院 獨協医科大学病院 那須赤十字病院
群馬	群馬県立がんセンター 国立病院機構沼田病院 独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター 独立行政法人国立病院機構 高崎総合医療センター 公立富岡総合病院 桐生厚生総合病院 前橋赤十字病院
埼玉	さいたま赤十字病院

都道府県	施設名称
	埼玉県立がんセンター 深谷赤十字病院 春日部市立医療センター 獨協医科大学越谷病院 川口市立医療センター 埼玉医科大学国際医療センター 社会福祉法人恩賜財団済生会支部埼玉県済生会川口総合病院
千葉	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 国保旭中央病院 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 国保直営総合病院 君津中央病院 独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院 船橋市立医療センター 千葉大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構 千葉医療センター 東京歯科大学市川総合病院 順天堂大学医学部附属浦安病院 東京慈恵会医科大学附属柏病院 国保松戸市立病院
東京	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 東京都立駒込病院 青梅市立総合病院 NTT東日本関東病院 日本赤十字社医療センター 日本大学医学部附属板橋病院 武蔵野赤十字病院 がん研有明病院 国立大学法人 東京大学医学部附属病院 日本医科大学付属病院 聖路加国際病院 帝京大学医学部附属病院 杏林大学医学部付属病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 昭和大学病院 慶應義塾大学病院 東京都立多摩総合医療センター 公立昭和病院 虎の門病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京都立墨東病院
神奈川	神奈川県立がんセンター 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 横浜市立市民病院 神奈川県厚生農業協同組合連合会 相模原協同病院 公立大学法人横浜市立大学附属病院 聖マリアンナ医科大学病院 東海大学医学部付属病院 北里大学病院 大和市立病院 独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院
新潟	新潟県立がんセンター新潟病院 新潟県立中央病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 新潟県厚生農業協同組合連合会 長岡中央総合病院 新潟大学医歯学総合病院

都道府県	施設名称
	県立新発田病院
	独立行政法人労働者健康安全機構 新潟労災病院
富山	富山県立中央病院
	黒部市民病院
	独立行政法人労働者安全福祉機構富山労災病院
	富山大学附属病院
	厚生連高岡病院
	高岡市民病院
石川	国立大学法人金沢大学附属病院
	石川県立中央病院
	金沢医科大学病院
	小松市民病院
福井	福井県立病院
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会病院
	福井赤十字病院
	福井大学医学部附属病院
山梨	山梨大学医学部附属病院
長野	長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院 佐久医療センター
	国立大学法人 信州大学医学部附属病院
	諏訪赤十字病院
	飯田市立病院
	長野市民病院
	長野赤十字病院
	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院
	伊那中央病院
	長野県厚生農業協同組合連合会 北信総合病院
	岐阜
岐阜	岐阜県総合医療センター
	岐阜県立多治見病院
	大垣市民病院
	社会医療法人厚生会 木沢記念病院
	静岡県立静岡がんセンター
静岡	静岡県立総合病院
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院
	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院
	順天堂大学医学部附属静岡病院
	藤枝市立総合病院
	浜松医科大学医学部附属病院
	浜松医療センター
	磐田市立総合病院
	愛知
愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院	
海南病院	
国立病院機構 名古屋医療センター	
小牧市民病院	
豊橋市民病院	
一宮市立市民病院	
公立陶生病院	
愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	
名古屋第一赤十字病院	
名古屋第二赤十字病院	
藤田保健衛生大学病院	
三重	日本赤十字社 伊勢赤十字病院
滋賀	市立長浜病院
	滋賀県立成人病センター
	大津赤十字病院

都道府県	施設名称
	彦根市立病院
	滋賀医科大学医学部附属病院
京都	京都市立病院
	京都第一赤十字病院
	京都第二赤十字病院
	市立福知山市民病院
大阪	大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター
	市立岸和田市民病院
	地方独立行政法人市立東大阪医療センター
	市立豊中病院
	大阪国際がんセンター
	独立行政法人大阪市民病院機構大阪市立総合医療センター
	大阪赤十字病院
	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
	独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院
	大阪医科大学附属病院
	大阪市立大学医学部附属病院
	国立病院機構 大阪医療センター
	八尾市立病院
兵庫	兵庫県立がんセンター
	神戸大学医学部附属病院
	神戸市立医療センター中央市民病院
	独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院
	公立学校共済組合近畿中央病院
	姫路赤十字病院
	赤穂市民病院
	公立豊岡病院組合立豊岡病院
	兵庫県立淡路医療センター
	兵庫医科大学病院
	兵庫県立柏原病院
奈良	奈良県立医科大学附属病院
	奈良県総合医療センター
	天理よろづ相談所病院
	市立奈良病院
和歌山	紀南病院
	日本赤十字社和歌山医療センター
鳥取	鳥取県立厚生病院
	独立行政法人国立病院機構米子医療センター
	鳥取県立中央病院
	鳥取市立病院
	鳥取大学医学部附属病院
島根	松江市立病院
	松江赤十字病院
	島根大学医学部附属病院
	島根県立中央病院
	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター
岡山	岡山赤十字病院
	岡山大学病院
	川崎医科大学附属病院
広島	県立広島病院
	広島赤十字・原爆病院
	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター
	東広島医療センター
	福山市民病院
山口	山口県立総合医療センター
	国立病院機構 岩国医療センター

都道府県	施設名称
	山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院 独立行政法人地域医療機能推進機構徳山中央病院
徳島	徳島県立中央病院 徳島大学病院 徳島市民病院
香川	香川県立中央病院 独立行政法人労働者健康安全機構香川労災病院 三豊総合病院 高松赤十字病院 国立大学法人 香川大学医学部附属病院
愛媛	市立宇和島病院 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 住友別子病院 愛媛大学医学部附属病院 愛媛県立中央病院 松山赤十字病院 社会福祉法人恩賜財団 済生会今治病院
高知	国立大学法人 高知大学医学部附属病院 高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 高知県立幡多けんみん病院
福岡	久留米大学病院 公立八女総合病院 地方独立行政法人大牟田市立病院 社会保険田川病院 飯塚病院 北九州市立医療センター 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 国立大学法人 九州大学病院 独立行政法人国立病院機構九州医療センター 福岡県済生会福岡総合病院 福岡大学病院 聖マリア病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院 産業医科大学病院
佐賀	地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 唐津赤十字病院 独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター
長崎	日本赤十字社長崎原爆病院 国立大学法人 長崎大学病院
熊本	熊本大学医学部附属病院 独立行政法人労働者健康安全機構熊本労災病院 人吉医療センター 熊本赤十字病院 国立病院機構 熊本医療センター 済生会熊本病院 荒尾市民病院
大分	大分県立病院 大分赤十字病院 大分大学医学部附属病院 大分県済生会日田病院 中津市立中津市民病院
宮崎	宮崎県立宮崎病院 国立病院機構 都城医療センター 国立大学法人宮崎大学医学部附属病院
鹿児島	国立病院機構 鹿児島医療センター 独立行政法人国立病院機構 南九州病院 県民健康プラザ鹿屋医療センター 公益財団法人昭和会 今給黎総合病院

都道府県	施設名称
沖縄	地方独立行政法人 那覇市立病院
	沖縄県立中部病院
	国立大学法人 琉球大学医学部附属病院
	沖縄県立宮古病院

がん診療連携拠点病院院内がん登録  
2012年3年生存率集計 報告書

2019年8月 第1刷発行(非売品)

編 集 東尚弘 奥山絢子  
(分析) (奥山絢子 渡邊ともね)  
発 行 国立研究開発法人 国立がん研究センター  
がん対策情報センター がん登録センター  
院内がん登録分析室  
〒104-0045 東京都中央区築地五丁目1番1号  
電話 03-3542-2511